

個 別 演 習 の 目 次

青 木 …… 1	天 谷 …… 3	井 上 …… 5	海 野 …… 6
岡 田 …… 8	緒 方 …… 10	沖 …… 11	加 藤 …… 12
塩 谷 …… 14	繁 本 …… 16	向 …… 18	園 部 …… 20
高 橋 …… 22	張 …… 23	趙 …… 24	西 成 …… 25
朴 (恩) …… 27	朴 (鏡) …… 28	原 …… 29	福 村 …… 30
藤 原 …… 32	藤 村 …… 33	二ツ山 …… 35	古 川 …… 37
星 野 …… 39	松 岡 …… 40	宮 脇 …… 42	持 田 …… 43
姚 …… 44	安 井 …… 45	山 口 …… 46	山 崎 …… 47
横 山 …… 49	渡 邊 …… 50		

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324158) 個別演習 (青木) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 青木 宏之	関連授業科目	経営学関連の科目	
	履修推奨科目	人的資源管理論A, B	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習60時間、事後学習60時間)			
授業の概要 この授業は、人的資源管理論・経営管理論を研究する。主な内容は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ・人的資源管理・経営管理論に関する文献の輪読。 ・グループワーク。 ・地元企業へのフィールドワーク。 			
授業の目的 この授業の目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・人的資源管理論・経営管理論についての文献を輪読し、討論することを通じて専門知識を深める。 ・自分の関心領域にかかわる資料収集や文献研究を行い、論文作成のための知識と技術を習得する。 ・フィールドワークを通じて、現代企業の問題を社会科学的に理解する力を習得する。 			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この授業の到達目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・人的資源管理論・経営管理論に関する専門知識を習得する。(DPコード「知識・理解」に対応) ・とくにその中でも自分の関心領域を定め、それに関するより深い知識を習得する。(DPコード「知識・理解」に対応) ・現代企業の実態を分析し、その結果をプレゼンテーションできるようになる。(DPコード「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準 【個別演習】 課題遂行状況、報告状況、出席状況、討議への参加状況などを勘案して総合的に評価する。評価にはルーブリック評価表を用いる。 【卒業論文】 文字数などの詳細は別途指示する。 文字数を満たしているか、所定の書式を満たしているか、論理性や独創性を持っているかといった点を中心に、総合的に評価する。 評価にはルーブリック評価表を用いる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【選考基準】 演習での成績や取り組み具合を中心的な選考基準とする。 演習を履修していない場合は、面接を行い、成績を合わせて選考する。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション：第1学期の授業にかんする説明・課題設定 第2～7回 人的資源管理に関する文献の輪読 第8回 各人のテーマ設定 第9～13回 各人のテーマに即した論文の論評 第14～15回 フィールドワーク 第16回 オリエンテーション：第2学期の授業にかんする説明・課題設定 第17～21回 卒業論文テーマに関するプレゼンテーション 第22～28回 文献輪読または論文論評 第29～30回 グループワーク：ディベートまたはプレゼンテーション 【授業および学習の方法】 この授業は対面で行います。しかし状況によっては、遠隔あるいはハイフレックスで行います。			

【自学学習のためのアドバイス】

第2～3回 授業中に指定する文献を用いて、事前に、企業の賃金制度改革についての事例を分析する。(10時間)

第4～7回 授業中に指定する文献を用いて、雇用制度改革に関して、授業で学んだ理論的枠組みを用いて分析を行う。(10時間)

第8回 事前に、卒論で取り上げるテーマについてまとめる。(10時間)

第9～13回 授業中に指定する文献を用いて、各人の卒論テーマに即した領域の基礎知識を得る。(20時間)

第14～15回 事前に、フィールドワークのための質問票作成を行う。(10時間)

第17～19回 卒論のテーマに関する必要文献リストの作成を行う。(10時間)

第20～21回 事前に、卒論の中間報告のための準備を行う。(10時間)

第22～25回 先行研究の分析を行う。(10時間)

第26～28回 先行研究を整理したうえで、卒論のオリジナリティーに関して構想する。(10時間)

第29～30回 事前に、フィールドワークのための質問票作成を行う。(20時間)

教科書・参考書等

その都度各自に指示する。

オフィスアワー 月曜日 3時限目 青木研究室 (幸町南7号館2階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・無断遅刻・無断欠席は厳禁。
- ・卒業論文にまじめに取り組むこと。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314123) 個別演習 (天谷) Special Seminar ミクロ経済学・ゲーム理論とその応用	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級ミクロ経済学	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級ミクロ経済学	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 ミクロ経済学およびゲーム理論の手法を習得し、それを用いて現実の経済・社会問題を分析できる力をつけることを目指します。 人間の行動原理と、人々の間の相互作用や駆け引きについて考察するのが「ミクロ経済学・ゲーム理論」という学問です。従って、ミクロ・ゲームの考え方を身につけることで、市場取引や経済政策といった標準的な経済学の問題はもとより、経営戦略・組織・交渉・制度設計・外交戦略など、様々な社会の事象への理解を深めることができます。 ミクロ・ゲームの思考法を習得することで、複雑な社会の問題の背後にある本質を自分の頭で紐解いて理解する快感を得るとともに、自分が社会で生きて行く上での大事な指針を手にすることができるでしょう。 演習では、参加者の希望も踏まえて具体的なテーマを選択し、テキスト講読、問題演習、教員や学生が提起する問題のディスカッション、グループや個人による研究を行います。これにより、知識の習得に加えて、研究のスキルやセンスを磨いて行きます。			
授業の目的 経済主体が相互依存関係下でいかなる意思決定を行うか、また市場においていかなる資源配分が実現されるか、ミクロ経済学とゲーム理論の観点から理解するとともに、自ら現実の経済問題を発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いて分析できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ミクロ経済学とゲーム理論の基礎概念を理解し、それらをどのような経済問題の分析に用いることができるのか説明できる (DPの「b:知識・理解」に対応)。 ・ 現実の経済問題を自らの力で発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いた簡単なモデルを作って分析し、説明することができる (DPの「c:問題解決・課題探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別演習 出席、ゼミでの報告・発言、課題レポート、学年末に提出の卒業論文 (最終稿だけでなく、どのようなプロセスで作成したかも含む) を総合的に評価する。 ・ 卒業論文 経済理論の手法を用いて、自分の設定したテーマについて分析を行い、論文にする。単位認定に当たっては、独創的な研究がなされているかを重視する。既存の文献等を調べてまとめただけのものは単位認定しない。 			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ・ 選考基準 同一教員の演習から継続する者については、ゼミ活動に貢献し、卒業論文作成に積極的に取り組む意欲が認められれば受け入れる。 その他の者については、以下の観点から選考を行う。 1. ミクロ経済学の基礎を習得しているか (もしくはこれからしっかり学習する意思があるか) 2. 経済学・現実の経済問題に強い興味を持っているか 3. 論理的・数学的に物事をじっくり考える意欲及び能力があるか 4. 受身の姿勢ではなく、主体性を持ってゼミでの勉強に取り組む意欲があるか 5. 報告準備を責任を持ってする、積極的に発言するなど、「楽しく緊張感のあるゼミ」づくりに貢献できるか 6. 研究したいテーマが教員の指導能力に適合するか ・ 授業計画並びに授業及び学習の方法 年間の演習のうち、おおよそ5割を講義・テキストの講読および問題演習、2割を研究方法のトレーニングおよび学生による研究発表とする。残り3割は履修者と相談の上、上級の文献講読、プロジェクト研究等にあてる。 発表担当でない回でも、テキストを精読して予習をし、自分の考え、疑問点などを整理したうえで出席することが求められる。また、上記のゼミ論文、卒業論文以外にも、学習内容を確認するためのレポートを適宜課すことがある。 ゼミは、グループでの勉強の場である。自分自身が学習意欲を持つのはもちろんのこと、他のメンバーの勉強にも協力・貢献する姿勢が求められる。 ・ この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性があります。 			

教科書・参考書等

参加者と相談の上決定する。以下は候補のいくつかである。

1. 丸山雅祥『経営の経済学』（第3版）有斐閣、2017年、3000円＋税
2. 伊藤秀史・小林創・宮原泰之『組織の経済学』有斐閣、2019年、3200円＋税
3. 坂井豊貴『マーケットデザイン入門』ミネルヴァ書房、2010年、3000円＋税
4. ギルボア『意思決定理論入門』NTT出版、2012年、2800円＋税

オフィスアワー 月曜日4校時。天谷研究室（南7号館3階）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

就職活動等でやむを得ず欠席する場合は、授業の進行や他の参加者の学習に支障をきたさぬよう、十分配慮することが求められる。

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-20-Ep4 授業科目名 (時間割コード: 324147) 個別演習 (井上善) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 4	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	簿記入門・会計学総論・株式会社会計・財務会計論A・財務会計論B・監査論	
	履修推奨科目	簿記入門・会計学総論・株式会社会計・財務会計論A・財務会計論B・監査論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 3年次の演習を踏まえて、財務会計に関する卒業論文の作成指導を行う。受講生には、卒業論文の進捗状況に関して定期的な報告を求める(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 言語運用能力)。			
授業の目的 財務会計に関する卒業論文の作成に必要な専門的知識と文章作成能力を身に付ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
卒業論文に関わるレジュメを作成することができる(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 言語運用能力)。 卒業論文に関わる討論に参加することができる(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 言語運用能力)。 自らの主張とその論拠を明示した論文を作成することができる(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 言語運用能力)。			
成績評価の方法と基準 選考基準: 演習における受講態度及びレポートの内容による。 単位認定方法: 日常の受講態度及び卒業論文の内容による。 卒業論文の作成要領と単位認定方針: 卒業論文の作成時に詳細について指示するが、学部の卒業論文として適切な水準の量と質が求められる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス 第2回～第12回 卒業論文経過報告(第1次) 第13回～第15回 中間報告 第16回～第26回 卒業論文経過報告(第2次) 第27～第29回 最終報告 第30回 総括と整理 自学自習 各自の報告に際しては、十分な準備が必要となる。			
教科書・参考書等 教科書: 指定しない。 参考書: 随時紹介する。			
オフィスアワー 演習終了後随時受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 卒業論文の指導が厳しいものとなることについてあらかじめ覚悟されたい。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 314126) 個別演習 (海野) Special Seminar 論文作成の技法	科目区分 専門教育科目	時間割 前期水1	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 海野 晋悟	関連授業科目 金融政策I、金融論I・II、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学、計量経済学		
	履修推奨科目 統計学、計量経済学		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 卒業論文の書き方を学びながら、卒業論文を作成する。そして卒業論文を執筆する過程で調べた内容を授業中にローテーションで発表する。その他の学生はそれに対して意見を言い、発表者はそれを踏まえて卒業論文をさらに発展させていく。論文作成のための基本的なことからデータ等の処理の仕方まで学ぶ予定である。卒業論文のテーマは経済に関係したことから自由である。			
授業の目的 ・他人に文書の形でわかりやすく物事を伝えるという能力は今後の人生においても非常に重要となります。この演習では、研究の進め方、文章の書き方、効果的な発表の仕方を習得することによって、その能力を習得することを目指します (DPの「言語運用能力/課題解決のための汎用的スキル」)。 ・IT技術の進歩によって、今、ありとあらゆることに関するデータが多数存在します。それらのデータも適当な加工・処理をし適切な方法で分析しなければ、宝の持ち腐れとなります。この講義では、データ等の適切な処理の仕方、見方なども学びます (DPの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・解決すべき問題を自分で設定することができるようになる。 ・問題に対して実行可能な解決方法を見つけることができるようになる。 ・データを前にして、適当な操作を行い、分析することができるようになる。 ・学術論文の形式にのっとって論理的な文章が書けるようになる。 ・自分の考えを他者に文章ならびに口頭でわかりやすく述べることができるようになる。 			
成績評価の方法と基準 ・令和2年度個別演習単位認定方法 出席状況・受講態度・卒業論文への取り組み姿勢などを総合的に評価する。 ・令和2年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 テーマは経済に関係することなら自由である。論文は20,000字以上を原則とする。 出席状況、授業への取り組みを総合的に評価する。授業を無断欠席した場合は、単位を認めない可能性がある。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。】 ・選考基準 前年度の演習履修者は、演習内でのパフォーマンス等を見て決定します。それ以外の人は成績表・面接によって履修が可能かどうか決定します。 その他の者については、以下の観点から選考を行う。 1. 経済学の基礎を習得しているか (もしくはこれからしっかり学習する意思があるか) 2. 経済学・現実の経済問題に強い興味を持っているか 3. 論理的・数学的に物事をじっくり考える意欲及び能力があるか 4. 受身の姿勢ではなく、主体性を持ってゼミでの勉学に取り組む意欲があるか 5. 報告準備を責任を持ってする、積極的に発言するなど、「楽しく緊張感のあるゼミ」づくりに貢献できるか 6. 研究したいテーマが教員の指導能力に適合するか ・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回: ガイダンスとイントロダクション 第2回～第15回: 学生による報告 第16回: ガイダンス 第17～30回: 学生による報告			

個別演習時間外にも卒業予定者には卒業論文の指導を行います。

他大学とのインゼミで卒業論文の中間発表会を予定しています。

個別演習内での卒業論文の締め切りは2021年12月28日（予定）とします。

1月に3年生・他ゼミ参加の卒業論文発表会を行う予定です。

【自学自習に関するアドバイス】

時間を見つけてコツコツとやっていくことが卒業論文完成までの近道です。毎日少しの時間（5, 10分）でもいいので、自分の卒業論文のことについて考える時間を作りましょう。

教科書・参考書等

教科書は特にありません。

参考書として

戸田山 和久（2012）「新版 論文の教室 レポートから卒論まで」NHK出版、1296円

を挙げておきます。

オフィスアワー **【<https://shingo-umino.youcanbook.me>】** から予約を取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・無断欠席は厳禁です。また、多すぎる欠席も厳禁です。
- ・講義中の携帯電話やスマホの使用は禁止です。

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314121) 個別演習 (岡田) Special Seminar 経済政策の実証研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目	経済政策	
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習 (事前学修 90時間 + 事後学修 30時間)			
授業の概要 アクティブラーニング型演習である。経済政策に関わる文献の事前学修に基づき、グループワークによる対話と発表を行ないながら、卒業論文を作成する。 前期は、3年次演習の期末レポート (卒論草稿6000字) を基に、ゼミ生による発表と討論を行なうほか、政策研究に関する専門的な文献を輪読する。後期は、夏休みの課題 (20000字まで発展させた卒論草稿) を基に、発表と討論及び添削指導を行なうほか、専門性を高めた政策研究に関する文献を輪読し討論を行なう。 なお、正規の演習時間枠90分を超えた活動 (フィールドワーク、高大接続授業、夏休みの研修旅行等) も多いので心積りしておくこと。			
授業の目的 経済政策に関わるさまざまなトピックを深く理解することを目的とする。財政政策、金融政策、雇用政策、社会政策、地域政策、振興政策、環境政策、対外経済政策などの諸政策について、学生諸君が、その歴史と現状の把握、及び海外の諸制度との比較ををしたうえで、学修の成果として20000字の卒業論文 (学位論文) にまとめられるようにする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済政策に関わる諸制度の現状について説明できる。(c: 問題解決・課題探求能力, b: 知識・理解) 2. 経済政策に関わる諸制度の歴史的な発展とその変遷について説明できる。(c: 問題解決・課題探求能力, b: 知識・理解) 3. 経済政策に関わる諸制度について、日本と海外の事例を比較し説明できる。(c: 問題解決・課題探求能力, b: 知識・理解) 4. 経済政策に関わる諸制度の問題点を明らかにし、解決策を提案できる。(c: 問題解決・課題探求能力, d: 倫理観・社会的責任) 5. 経済政策に関わる卒業論文 (学位論文) を執筆できる。(c: 問題解決・課題探求能力, b: 知識・理解, d: 倫理観・社会的責任)			
成績評価の方法と基準 ・個別演習単位認定方法 報告担当時の報告内容 (40点), 出席状況 (30点), 卒業論文 (準備論文を含む) (30点) の100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。評価にはルーブリック評価表を用いる。なお、無断欠席をしたものは不可とする。 ・卒業論文の作成要領と単位認定方針 20000 字以上の論文でなければならない。作成要領の詳細は個別演習の中で指示する。単位認定にあたっては、自らの新しい見解・論点 (独創性) が盛り込まれていることを要件とする。必ず、卒業論文指導を受ける事。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ・選考基準 演習 (岡田) の修了者: 演習の成績による。 他の演習の修了者: 自由科目 (自学科と他学科) を15科目 (30単位) 以上、既に修得している事を前提とし、面接のうえ可否を決定する。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 アクティブラーニング (能動的学修) によるグループワークを基本とする。			
第1回～第11回 SGCIME編『現代経済の解説 (第3版)』の輪読・討論 第12回～第15回 ゼミ生による卒論草稿 (6000字) の中間発表と討論			

第16回～第21回 後期テキストの輪読・討論
第22回～第29回 夏休みの課題（20000字の卒論草稿）の発表と討論及び添削指導
第30回 卒業論文発表会

テキストの輪読にあたっては、各回に報告担当者を決める。

事前準備として、報告担当者は、テキストの内容に即した「レジюме」を作成したうえで、参加者の質問に答えられるよう下調べを行ない、演習に臨まなければならない。他の参加者は、テキストの該当範囲を熟読し、分からなかった単語・単純な疑問と、話し合うに値する問題点・論点のそれぞれを「発見カード」に整理し、ゼミ前日までに提出しなければならない。

当日は、報告者論点と、発見カードに基づいて、3～5人のグループで対話する。司会と書記を交互に担当すること。対話の終了後、書記が、ゼミ全体に向けて発表を行なう。司会が、他グループの発表に質問やコメントを寄せる。指導教員による助言と、報告担当者の総括コメントでゼミを締めくくる。

教科書・参考書等

前期：SGCIME編『現代経済の解説（第3版）』御茶の水書房，2017年，2500円。

後期：既刊の良書を選択する。

テキストは、ゼミ全体で共同購入するので、生協や一般書店等で購入してはならない。

これ以外に、通年で必要となる経済辞典として：

金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版を必携とする。大学生協等で購入して、演習に毎回持参すること。

オフィスアワー 火曜日IV時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら積極的にゼミに関わり合い、真摯に学ぶ姿勢が求められる。

個別演習規定時間外にも、個別に卒論指導を行なう。日程調整を行なうので、呼び出しには柔軟に応じる事。

ナンバリングコード B4SCL-bceE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 334176) 個別演習(緒方) Special Seminar 卒業論文執筆ゼミナール (文化人類学演習Ⅱ)	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目	文化人類学、社会調査法	
	履修推奨科目	文化人類学、社会調査法	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 基本的には各自が授業時間外に調査研究を進めることになる。 時間外学習の成果をゼミや教員指導の折に報告し、コメントをもらって、卒業論文の完成を目指す。			
授業の概要 文化人類学または社会調査法を既に履修しており、ゼミの議論で仕上げたものを基礎としながら、学生自身が決めた卒論テーマについて、民族誌、社会調査的なモノグラフとなるように、さらに調査・研究を重ねていく。その過程で、教員との面談、演習での卒論発表、議論をすることを通じて、四年間の学習の集大成としてよりより卒業論文の完成をめざす。			
授業の目的 この個別演習は、実証的な研究課題を学生各自で設定し、文化人類学、社会学的な視点から研究した卒業論文を執筆・完成させることが目的である。文献などの二次情報だけでなく、自らの観察や聞き取りにもとづいた第一次情報の収集力と分析力を訓練し、文化人類学と社会学、社会調査の手法、さらにその関連分野の問題発見力と思考力を身につける。将来、公務員、国内外の企業(国際部門)、公益法人(JICAなど)、新聞社などのメディアなどに勤めたときにグローバル化時代の人類学的な考えを持ち、地域社会を牽引できる能力と知識を身につけることを目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 先行研究を批判的に読み解く力を身につける。 2. ある社会や地域・集団を対象にして人類学のフィールドワーク、社会調査法的な思考から、アンケート調査、マーケティング・リサーチなどを企画・立案し、実際にデータ収集・分析を行うことができる。 3. 人類学と社会学さらにその関連分野の問題発見力と思考力を身につける。 4. 卒業研究を完成し、自己の研究テーマについて一定の方法論と知識を獲得することができる。			
成績評価の方法と基準 1. 個別指導の折の内容 (20%) 2. 合同ゼミや中間発表会での口頭報告の内容 (20%) 3. 提出されて卒業論文の内容 (60%) ※評価基準: 形式、2万字以上、資料の質と量、論理、オリジナリティの各点について評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ※この講義は基本的に対面で実施します。			
【授業計画】 ①卒論にむけて計画を見直し、関連する先行研究などの検討を行なう。 ②前期終了時まで卒論のアウトラインを作成し、全体の構成とその進捗状況を確認し、今後必要な具体的作業を確定する。 ③卒論の内容をゼミで報告する ④夏休みに補足調査を実施する。 ⑤担当教員のコメントを受けて内容を修正をする。 ⑥他大学の学生と共同の卒論発表会にて卒論を発表する。 ⑦12月初めまでに最終原稿を教員提出する。教員から返却された原稿を修正する。 ⑧1月に完成原稿を提出する。			
【選考基準】 ・文化人類学、社会調査法を履修していること。 ・上記以外の学生については、それと同等の学力があること。			
教科書・参考書等 教員が必要に応じて指示する。 ただし、各自が卒論執筆に必要と考える図書は必ず自分で購入するか、図書館から借りるなど自主的に行うこと。			
オフィスアワー 水曜日14時から16時南キャンパス2号館3階緒方宏海研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 自らから現場へ向かい、自分自身で収集してきたデータを出発点として、自分が生きる世界のあり方やものの考え方を根源的に問い直すことこそが、人類学、社会学の目指すところである。この演習では、フィールドに飛びこみ、「他者」や「異文化」に自己の身をさらすこと、果敢に調査・研究に取り組むことができる学生を歓迎する。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314111) 個別演習 (沖) Special Seminar グローバル資本主義の思想・歴史・現在	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月3	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学 I・II	
	履修推奨科目	政治経済学 I・II	
学習時間 演習90分×30回＋自学自習 (準備学習 120時間)			
授業の概要 3年次の演習を踏まえて、グローバル資本主義に関する卒業論文を書くための準備作業を行います。前半では、論文の書き方に関する文献の輪読、各自が選んだ卒論テーマについての報告を行います。後半は、卒業論文の執筆を実際に進めていきます。			
授業の目的 学術論文を読み解くことを通じて、経済社会の本質や構造に対する高度な理解力を養います。また、卒業論文を執筆するための基本的スキルを身につけます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 学術論文を正確に理解することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 他人の意見を批判的に吟味することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. グローバル資本主義の特徴を説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 現代社会の抱える諸問題に対し学術的にアプローチすることができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 5. 論理的な文章を学術論文の形式に則って書くことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 個別演習: 出席状況、報告内容、議論への参加の積極性などにより総合的に判断します。 卒業論文: 認定の基準は、展開が論理的であるか、先行研究への言及があるか、学術論文としての体裁が整っているか、などです。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
選考基準: 3年次の演習の取り組み方によって判断します。 授業計画: 前半では、論文の書き方に関する文献の輪読、各自が選んだ卒論テーマについての報告を行います。後半は、卒論作成を進めていきます。 授業の方法: この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 自学自習: 報告担当者はレジュメを作成するなど、報告の準備をします (5時間程度)。それ以外の参加者は文献を精読し、疑問点や論点を用意します (2時間程度)。			
教科書・参考書等 川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房。			
オフィスアワー 初回時に指定します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 卒業論文は大学で学んだことの集大成です。執筆は大変ですが、がんばりましょう。			

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314122) 個別演習 (加藤) Special Seminar 高齢社会と社会保障	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	演習、福祉経済論、社会政策、経済政策、財政学	
	履修推奨科目	演習、福祉経済論、社会政策、経済政策、財政学	
学習時間 講義90分×30回＋自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 この個別演習では、演習で学習した内容を基盤としながら、日本の福祉国家システムの現状や課題について、より掘り下げて研究・分析を行います。 授業はゼミ生の報告とディスカッションを中心に進めます。 夏休みと春休みに、卒業論文に関する報告会を行います。			
授業の目的 この授業では、日本の福祉国家システムの特徴や課題について、実証的に分析・検討していきます。 受講生は、3年次の演習で学習したことを基盤としながら、より専門的な文献や資料を読解し、論文としてまとめる力を培います。加えて、報告と議論を通じて、他者の発言・意見を理解する力、報告内容や自分の意見を他者に的確に伝える力、コミュニケーション能力の向上を目指します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 日本の福祉国家システムの特徴を理解し、説明することができる。 (2) 経済社会の構造変化が、現在の社会保障システムに与える再編圧力を説明できる。 (3) 専門的な文献や資料を読解し、論文としてまとめることができる。 (4) 専門的な文献や資料を読解し、その内容を的確に他者に伝えることができる。 (5) 他者の報告や発言・意見を理解し、自分の意見を論理的に述べるることができる。			
成績評価の方法と基準 (1) 受講態度、報告・発言内容、提出課題の状況によって評価します。 (2) 卒業論文は、20,000字以上とします。テーマは、演習に関連するテーマを設定してください。 設定したテーマに対し、分析視角、論理構成、先行研究及び資料・データ等の分析内容等から評価します。 (3) 評価にはルーブリック評価表を用います。 (4) 無断欠席に関しては、単位を認定しない可能性があります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業方法】 ・授業はゼミ生の報告とディスカッションを中心に行います。報告の際には、配布資料を作成し、参加者に配布してください。 ・他のゼミ生の報告をきちんと聞き、互いの知識と知見を深めるために、質疑を積極的に行ってください。 ・この科目は基本的に対面授業を行う予定です。状況によっては、授業を遠隔方式に変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回 ガイダンス、卒業論文の概要の報告(テーマ、研究目的、目次案、参考文献リストなど) 第2・3回 卒業論文の概要の報告 第4-12回 卒業論文に関する報告 ・主要な参考文献の内容 ・関連する制度、歴史的変遷 ・基礎的な統計データの整理・検討 ・分析の手法、進捗状況 など 第13-15回 夏休みの研究計画の報告 ゼミ補講：中間報告会 第16・17回 進捗状況の報告 第18-28回 卒業論文に関する報告 第29・30回 卒論報告会に向けた準備 ゼミ補講：卒論報告会			

【自学自習のためのアドバイス】

第1-3回 春休み中に勉強した内容を報告できるよう準備をする。(6時間)

第4-12回 研究内容を整理し、ゼミ内で知見を共有できるよう報告準備をする。(18時間)

第13-15回 夏休みの研究計画を作成し、報告準備をする。(6時間)

夏休み期間 文献サーベイ・調査研究(60時間)

第16・17回 卒業論文の中間報告として、資料の作成と質疑応答のための準備を行う。(4時間)

第18-28回 研究内容を整理し、ゼミ内で知見を共有できるよう報告準備をする。(22時間)

第29・30回 卒論報告会に向けて、資料の作成と質疑応答のための準備を行う。(4時間)

【個別演習選考基準】

- ・演習における取り組み状況と卒業論文への意欲によって判断します。
 - ・他の演習の修了者については、本演習の選択理由、卒業論文のテーマ、意欲、成績と、面接によって判断します。
- なお、卒業論文のテーマが研究題目と関わりのない場合には、履修を断ることがあります。

教科書・参考書等

テキスト・参考資料については、各自の卒業論文の内容に即しながら指導します。

オフィスアワー 木曜日 12:00-13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

卒業論文の作成は、堅実・着実に進めてください。

無断欠席厳禁。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324164) 個別演習(塩谷) Special Seminar 経営学の実証研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月1	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 塩谷 剛	関連授業科目 経営戦略論、経営組織論、イノベーション論、計量経済学Ⅰ/Ⅱ、調査データ分析Ⅰ/Ⅱ		
	履修推奨科目 計量経済学Ⅰ/Ⅱ、調査データ分析Ⅰ/Ⅱ		
学習時間 講義90分×30回＋自学自習(事前学習90時間＋事後学習60時間)			
授業の概要 経営学の領域における実証研究の方法論を指導する。企業組織に関する研究論文の執筆を通じて科学的・論理的な思考能力を養うことを目標とする。			
授業の目的 経営学の領域における調査研究の実行・論文執筆に必要なスキルを習得し、卒業論文を完成させる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①自ら仮説を立てることができる。 ②仮説を統計的手法を用いて検証できる。 ③調査研究の結果を論文にまとめることができる。			
成績評価の方法と基準 卒業研究および個別演習の活動状況により単位認定する。 具体的には、受講態度30% (準備状況および討議への貢献度など)、卒業論文70%により総合的に評価する。評価にはルーブリック評価表を用いる。 下記の要件を満たしている場合に卒業論文としての提出を許可し、その内容に応じて評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・企業経営に関する研究テーマが選択されていること ・研究論文作成の様式に則っていること ・先行研究を整理し、学術的・実践的意義を有するもの ・執筆者自身が作成したデータセットを用いた統計的実証分析を行っていること データのタイプは、アーカイブデータ、アンケートデータどちらでもかまわない			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【令和4年度個別演習選考基準】 <ul style="list-style-type: none"> ・本演習の受講者は演習の取り組み状況と研究計画書により選考する。 ・新規参加希望者は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。 ・本演習の受講生も含めて、令和4年度の個別演習希望者は令和3年度年度において「計量経済学Ⅰ」「計量経済学Ⅱ」「調査データ分析Ⅰ」「調査データ分析Ⅱ」のうち少なくとも2科目を履修していることを必須とする。令和3年度までに上記科目の単位を取得している場合はその限りではない。 この科目は全回対面授業を行う。			
第1学期 第1回：イントロダクション 第2回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第3回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第4回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第5回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第6回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第7回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第8回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第9回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第10回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第11回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第12回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第13回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第14回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告 第15回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告			

第2学期

第16回：卒業論文進捗報告

第17回：卒業論文進捗報告

第18回：卒業論文進捗報告

第19回：卒業論文進捗報告

第20回：卒業論文進捗報告

第21回：卒業論文進捗報告

第22回：卒業論文進捗報告

第23回：卒業論文進捗報告

第24回：卒業論文進捗報告

第25回：卒業論文進捗報告

第26回：卒業論文進捗報告

第27回：卒業論文進捗報告

第28回：卒業論文進捗報告

第29回：卒業論文進捗報告

第30回：演習内卒業論文報告会

<予習>

研究に関連する論文の内容や進捗状況をレジュメにまとめる。

<講義中>

受講生による報告、教員による研究指導

<復習>

指導内容をもとに研究を進める。

教科書・参考書等

受講生の研究テーマに即して随時紹介する。

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。

研究室：南7号館2階2-10

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

みなさん自身が「面白い」と思える研究をしてください。指示を待つのではなく能動的な取り組みを期待しています。それでは1年間頑張りましょう。

ナンバリングコード B4BSN-cabE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324151) 個別演習 (繁本) Special Seminar 財務会計と関連領域の多角的研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目	財務会計論A・B、会計学総論、株式会社会計、監査論、簿記入門	
	履修推奨科目	株式会社会計、監査論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (予習60時間+復習60時間)			
授業の概要 3年次の演習を踏まえて、財務会計に関連するテーマの卒業論文の執筆指導を行う。			
授業の目的 卒業論文の執筆に必要な専門知識を身に付け (DPの「知識・理解」に対応)、卒業論文のテーマとして適切な研究課題を自らの力で見出し (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)、その課題に対して的確な分析と考察を経て合理的な結論を導くことができるようになる (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)。その上で、分かりやすく論理的な卒業論文を作成できるようになる (DPの「言語運用能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 卒業論文の執筆に必要な専門知識を説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 2. 卒業論文としてふさわしい研究課題を自ら見出せる (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)。 3. 研究課題に対し的確な分析と考察を行うことができる (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)。 4. 3を踏まえて合理的な結論を導き出せる (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)。 5. 分かりやすく論理的な論文を作成できる (DPの「言語運用能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 【個別演習】 卒業研究の進捗と質、ならびに授業における報告の質やディスカッションへの参加状況によって単位認定および成績評価を行う。詳細は授業で説明する。 【卒業論文】 詳細は個別演習時に説明するが、財務会計に関連するテーマであって、卒業論文としてふさわしい質を備え、字数は20,000字以上であることが必要。質という点では、既存研究の焼き直しや文献を単に整理するだけでない独創的な課題設定、先行研究の十分な読み込み、適切なデータの利用、論理的な文章構成、十分な根拠に基づく説得力のある結論、論文にふさわしい文体などが求められる。これらの達成度をもとに単位認定および成績評価を行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【選考基準】 演習の取組状況をもとに選考する。 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 (1) 前期 ・ 卒論執筆のために必要な論文の作法を学ぶ。 ・ 卒業論文のテーマを設定し、研究計画書を作成する。 ・ 研究の進捗状況を定期的に報告し、ディスカッションを行う。 (優れた論文を作成するためには、他人からの指摘が非常に有益) ・ 論文執筆に必要な知識を補強するため、研究テーマに関連した学術論文を読み、ディスカッションを行う。 (2) 夏休み中 ・ 各自で論文の柱となる分析を行う。 (ここで分析の大半に目途を付けておかないと締切に間に合わない公算大) (3) 後期 ・ 論文作成の進捗状況を定期的に報告し、ディスカッションを行う。 なお、卒論作成の途中報告を数回、3年演習時に行う予定である。 【自学自習および学修の方法】 ・ 選択テーマに関連する基礎知識を十分に身につけるよう、予習・復習とも毎回90分を目安に行う。 ・ 卒論作成は長期的な計画に基づくことが必要。4年生は就活などに時間を取られがちだが、少しずつでも時間をみつけて計画的に執筆を進めるよう心掛けてほしい。 【授業形態】 ・ 全回対面形式で実施する。しかしながら状況によっては全てまたは一部の授業回を遠隔へ変更する可能性がある。			

教科書・参考書等

【テキスト】明石芳彦『社会科学系の論文の書き方』ミネルヴァ書房、2018年。(本体2,200円＋税)

【参考書】各自の研究テーマに即した参考文献を随時紹介する。

オフィスアワー 前期は金曜日16-17時、後期は火曜日18-19時。指定時間以外でも、事前連絡があれば学習相談に随時応じる。なお、会議等で不在の場合や、感染症対策のため研究室（南2号館3階）以外で相談に応じることがあるため、事前連絡することが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

卒論作成は能動的な行動が非常に重要。「言われないとやれない」「ギリギリにならないと動けない」という受動的な姿勢を取ってしまうと卒論完成は覚束ない。提出期限間近になって慌てることがないように計画的に卒論作成に取り組んでほしい。

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324160) 個別演習 (向) Special Seminar 国際経営ゼミナール International Management Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 向 滄	関連授業科目 グローバル経営論、経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、調査データ分析		
	履修推奨科目 グローバル経営論、経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、調査データ分析		
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習90時間+事後学習30時間)			
授業の概要 卒業論文作成のための研究指導を行う。			
授業の目的 卒業論文に必要となる専門分野に関する応用的な知識や文章作成能力を身に付ける。また国際経営の理論と研究方法論を活かして、多国籍企業の経営活動の実証研究を行い、卒業論文を作成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 国際ビジネス戦略とマネジメントについて問題意識を持ち、かつ適切な方法で調査・研究し、論理的な文章を書くことができる (学士課程のDP「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 卒業論文に関わるレジュメや論理的な文章を書くことができる (学士課程のDP「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 卒業論文に関わるプレゼンテーションと討論を通じて、自らの主張を他人に明確に伝えることができる (学士課程のDP「倫理観・社会的責任/市民としての責任感と倫理観」に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
<ul style="list-style-type: none"> 個別演習 卒業研究の進捗状況と成果、ゼミ活動へのコミットメントと貢献により総合的に評価する。 卒業論文 卒業論文は、以下の条件を満たさなければならない。卒業論文の完成度と面白さに応じて評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①学生らしい問題意識を出発点とした国際経営に関する研究 ②先行研究を踏まえた上で書かれていること ③書式にのっとって書かれていること (書式については別途指示する) ④論理性と独創性を持っていること ⑤文字数は20,000字以上 			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> 選考基準 <ol style="list-style-type: none"> ①3年生の演習から継続する場合は、特別な事情がない限り、選考を行わない。 ②4年生から新規に個別演習に参加したい場合は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 インTRODクション 第2～29回 研究発表および個別指導 第30回 卒業論文発表会 なお、ローテーションで3年生演習の補助をしてもらうこともある。 【学習方法に関するアドバイス】 <ol style="list-style-type: none"> ①演習生は教員のサポートの下で、主体的に卒業論文に取り組むこと。 ②演習生は自らの進捗状況を把握しながら、計画的に研究を進めること。 ③毎回の中間発表の前日までに、発表者は原稿をゼミ全員に送付して、目を通してもらうこと。 ④演習生は他人の発表内容に対して、建設的な意見を積極的に述べること。 <p>*この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p>*進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合があります。</p>			

教科書・参考書等

特定の教科書を使わないが、卒業論文作成上有益な参考書を、随時各自に紹介する。

オフィスアワー 木曜日3時限目、事前にe-mail等でアポイントメントを取る事。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・無断欠席は厳禁。
- ・体調管理に気を付けて、時間に余裕を持って、卒業論文に取り組むこと。

ナンバリングコード B4SCL-acdE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 334191) 個別演習 (園部) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 acdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目	ヨーロッパ社会論、国際社会学、その他ヨーロッパ関連の講義および外国語	
	履修推奨科目	ヨーロッパ社会論、国際社会学	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習100時間+事後学習20時間)			
<p>授業の概要</p> <p>卒業論文の執筆に向けた指導を行う。</p> <p>グローバル化が現代社会においてもたらず課題について、社会的に考察し、調査し、行動し、表現する能力を養う。「常識」を疑い、柔軟な思考能力を養う作業を続ける。</p> <p>【主要テーマ：国民国家とポストコロニアリズム、移民・女性・マイノリティの地位、異文化理解・多文化社会、社会的格差と市民権、ジェンダーと開発など】</p>			
<p>授業の目的</p> <p>卒業論文の執筆に必要な専門用語を適切に使うことができる。 論理的な文章作成能力を身につける。 卒業論文を完成させる。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
「常識」を疑い、「他者の視点」から社会現象を考察し、論文にまとめられるようになる。 卒業論文を執筆し、完成させる。			
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>【個別演習】 授業での報告、討論への参加・貢献度、卒業論文への取り組みのプロセスを総合して認定する。 10月初旬に卒業論文の構想発表を行う (個別演習の単位認定に必須とする)。</p> <p>【R4年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の【主要テーマ】を参照に、自分の問題意識に沿って課題を設定し、調査を行って執筆する。 ・独自の問題意識を持っているか、自分で調べた資料をもとに、論理的に文章を展開できているかどうかを重視する。 ・オリジナルな視点をもっているかどうかが大切である。 ・文献によるだけでなく、★必ず何らかのかたちで現地調査を行うこと★。 ・現地調査が可能な調査地を選ぶこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・文献・論文等は、20点以上を使用すること。 ・書式は基本的に下記の参考書によるが、適宜、指示する。 ・文字数20,000字以上とする。 			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>【選考基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ社会論、国際社会学どちらかまたは両方を履修しているか、これから履修すること。 ・卒業論文のテーマ (ひとつに絞りに絞れない場合は3つ程度までの案) を設定し、概要をまとめて持参すること。 ・成績履修状況についての資料を持参すること。 ・卒業論文執筆についての積極性を示し、テーマへの自分なりの動機と関心を説明できること。 <p>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</p> <p>前期：設定したテーマに沿って、4月中に文献リストを作成する。5月に1回目の報告。調査計画を立てる。</p>			

<ul style="list-style-type: none"> ●テーマが絞り込めない場合 <ul style="list-style-type: none"> ・5月中に随時、テーマを絞り込むための議論の回をもうける。 ・6月中には必ず問題設定を決めること。 ●卒業論文の構成と執筆方法について、参考書を用いて把握する。 ●長期休暇中に文献を読み進める。 ●現地調査は、夏期休暇終了までには行うこと。 <p>後期：10月初回に構想【タイトル＋章立て＋問題設定と概要】を発表する（この発表は、個別演習の単位認定に必須とする）。執筆を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●11月に執筆状況を報告し、他の参加者からコメントをもらう。 ●2022年12月5日（月）までに、最終原稿を提出すること。 ●最終原稿について、ゼミ生同士で相互チェックを行う。教員が内容についてのコメントを付けて年内に返却する。それに基づいて修正する。 ●年明けに完成原稿を提出して教員の最終確認を受けてから、所定の期日に提出する。
<p>教科書・参考書等</p> <p>教科書【1】 浜田麻里ほか著、1997『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版</p> <p>【2】 佐藤郁也、2006『フィールドワーカー書を持って街へ出よう 増訂版』新曜社</p>
<p>オフィスアワー 講義中に指示する。</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p> <p>無断欠席、遅刻はしないなどマナーを守り、お互いを尊重しつつ研究する姿勢を身につけましょう。</p>

ナンバリングコード B4SCL-bacE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 334179) 個別演習 (高橋(明)) Special Seminar 台湾の社会と文化 Taiwanese Society and Culture	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	アジア文化論、	
	履修推奨科目	外国語演習 (中国語)	
学習時間 授業時間 90分X30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) + 現地研修約 1週間			
授業の概要 「台湾人」は原住民、漢民族、日本人、と統治者が交代してきたため、中国語圏でも中華人民共和国とは異なる独特の価値観を持っています。日本と近代以降特に密接な関係にあった台湾について、日本人の理解は十分とは言えません。2014年は、春に「太陽花運動」で議会が学生に占拠されたり、暮れの統一地方選挙で与党が大惨敗をして、さらに今年1月の総統選挙で政権交代が起こり国民党主席が辞任するなどする民主化以降社会の状況も目まぐるしく変化しています。更に、多種類の言語と文化・宗教が混在して、様々な顔を持っています。このゼミでは書籍、論文の輪読や現地見学を足場に、幾つかの視点から、台湾の現状を分析します。			
授業の目的 台湾に関する卒業論文制作の基礎として、資料の收拾法、批判的な読み方、実地での観察結果をレポートにまとめることなどの実際の手順を身に着ける。(DPの「知識・理解」に対応) 中国語・英文資料も利用して台湾の現状について理解する。(DPの「言語運用能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1資料を読みレジュメにまとめて発表することができる 2現地で資料を集めたり、現状観察の結果を文書化することができる。			
成績評価の方法と基準 演習での分担作業や発表 (40%) 現地調査の準備や、現地での行動 (20%) 現地見学・調査のまとめレポートと口頭発表 (40%) なお、出席は当然なので減点基準にしかりません。 **投稿制限により現地調査ができなかった場合は、条件は変更になります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ・選考基準 台湾や中華文化圏に興味があり、自然・風景・街を観察するのが好きな人向きです。他のメンバーとコミュニケーションが支障なくとれることも必要です。 台湾での見学・調査を含むので原則中国語を履修していることが望ましい。ただしコミュニケーション能力に自信があるものは未履修者でも差しつかえありません。(4年次から受講する場合は、中国語既修者に限る) 通常11月頃に実施する台湾現地研修は、必須。パスポート、渡航資金を秋口までに準備することが必要です。また身体的・宗教的理由で極端に食べられないものが多い人は向いていません。なお中国語圏に限らず長期の留学を3、4年次に計画している人は、予め選考時に申し出てください。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1学期 卒業論文のテーマの絞り込みと口頭で発表それについての討議を行う。7月6日奈良県である台湾学会を必ず聴講する。(4年次は希望者のみ、ただし4年次から受講するものは必須) 第2学期 現地見学調査の準備、各自テーマの設定、帰国後の報告作成、口頭発表。 授業準備として、自分の発表の回でない場合も、発表内容に関連する下読みをして、討議に備えてください。 【自学自習のためのアドバイス】 台湾に関する学術論文の下読みをする (15時間) 台湾での実地調査計画を立て、説明する (10時間) 卒業論文のテーマに関する資料を収集する (20時間) 現地で集め、調査した資料を分析整理する (15時間)			
教科書・参考書等 TBA			
オフィスアワー 前期 金曜2時間目 研究室 後期 月曜5時間目 研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 演習受講者は基本的に受け入れます。他の個別演習と並行して受講を希望する者は、中国語を学習していることが必須です。選考は面接によります。 ・平成31年度個別演習単位認定方法 秋の現地調査にいたる準備と、それを卒業研究に活かしているかで判断します。4年次現地調査も必須です。 ・令和2年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 台湾に関することで研究として成立しうるものであれば基本的にそのテーマを認めます。中国語履修者は中国語の、未履修者は英語の文献を少なくとも1本は利用することを求めます。日本語で20000字以上。なお中国語を母語とするものや特別履修プログラム参加者は中国語で提出することも認めます。(中国語の場合10000字以上) なお、渡航制限が緩められた場合、台湾研修は必須です。			

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324162) 個別演習 (張) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目	経営史、現代企業論	
	履修推奨科目	経営史、現代企業論	
学習時間 授業時間90分×30回+自学自習 (準備学習82時間+事後学習23時間)			
授業の概要 本演習では、企業のあり方及びその歴史的成因について研究を行い、それを卒業論文として完成させる。 主な内容は以下のとおりである。 ・前年度までの研究成果を踏まえて、各自の卒論テーマを改めて設定する。 ・卒論に向けて、中間報告を定期的に行い、ディスカッションをし、論文の修正を随時行う。 ・卒論を完成させる。			
授業の目的 この授業の目的は下記のとおりである。 ・企業の経営上の問題を歴史的な視点を用いて分析することができる。 ・必要とする資料へのアクセス方法を習得できる。 ・自ら研究課題を設定し、資料を駆使して論理的に説明することができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・企業の抱える問題を歴史的に思考することができる。 ・グループワークの力を借りて、最終的に自力で研究課題を解決することを学べる。 ・自分の考え方を文書にして、論理的に説明することができるようになる。			
成績評価の方法と基準 【個別演習の成績評価】 中間報告への取り組み姿勢と課題遂行状況に基づき総合的に判断する。 【卒業論文の成績評価】 卒業論文は以下の諸点を達成できることを条件とする。達成度を鑑み卒論の成績とする。 ①先行研究を踏まえたうえ、研究目的をはっきりと明示する。 ②資料の使い方は適切である。 ③論理展開は明瞭で説得力がある。 ④一定の独創性を有する。 ⑤2万字以上である(図表のスペースも含む)。 ⑥所定の書式を遵守する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【選考基準】 3年次「演習」に基づき、課題を提出して、合格したもの。 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 ※対面により実施することを基本とする。 第1回 オリエンテーション：授業に関する説明と課題設定 第2～9回 中間報告・ディスカッション 第10～14回 個別指導+グループワーク 第15回 前期のまとめ 第16～21回 中間報告・ディスカッション 第22～30回 卒業論文報告・学内ゼミとのジョイントゼミ報告 【準備学習および事後学習のためのアドバイス】 第2～9回 中間報告の準備、ならびにディスカッションを通して得た反省点を中心とした事後学習を行うこと。(準備30時間、事後10時間、各個人1回) 第10～14回 論文の進捗状況を確認し、完成に向けて修正していく。(準備8時間×4回) 第16～21回 中間報告の準備、ならびにディスカッションを通して得た反省点を中心とした事後学習を行うこと。(準備10時間、事後5時間、各個人1回) 第22～30回 個別指導、卒業論文報告をする予定。(計準備10時間、事後8時間、各個人1回)			
教科書・参考書等 教科書指定なし。それぞれのテーマに即して随時案内する。			
オフィスアワー 火曜日の三時限目。研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 卒業論文は私たちが社会に向けての最初の名刺となります。その作成過程を大切にしていきたいと思います。			

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324161) 個別演習 (趙) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月3	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目	経営学関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論、経営戦略論、流通システム論	
学習時間 演習90分×30回＋自学自習 (準備学習60時間＋事後学習60時間)			
授業の概要 大学で学ぶことは、特に社会科学の場合は、「社会で起きている出来事を、研究の世界で言われていること (理論) と照らし合わせながら理解する力を付けること」です。理論は、「個々の現象を法則的に、統一的に説明できるように道筋を立てて組み立てられた知識の体系」です。「個々の現象」とは世の中で起きている出来事ですが、現実 (「個々の現象」) は常に変化しているわけです。理論は現実を説明するためのものですから、現実がかなり変化していると、理論はいずれ当てはまらなくなります。そうすると、新たな現実に合わせて理論を作りかえなければなりません。本個別演習では、このような作業をマーケティングや流通の分野に焦点を当てて行います。			
授業の目的 本個別演習では、マーケティングや流通における理論を学び、そこで起きている現実を理論的に眺めて見る、あるいは理論を現実的な側面から眺めてみることを通じて、自ら問題を発見し、解決策の仮説 (仮の答え) を立て、検証する作業を行います。本演習はこのようなトレーニングを通じて、マーケティングや流通の現象を深く理解することはもちろん、「問題発見能力」、「問題解決能力」、いわゆる「現実を見る目 (社会で起きていることを理論と対応させながら考える力)」を養うことを、目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングがわれわれの生活にどのようなかわりをもつか理解できる。 2. 現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つか理解できる。 3. ある問題について論理的に考える、伝える、討論する、文章で表現できる。			
成績評価の方法と基準 ・ 個別演習 卒論進行状況、出席状況、報告内容、議論への参加度、ゼミ活動などの状況に基づいて総合的に判断します。 ・ 卒業論文 20,000字以上。 マーケティングや流通はもちろん、経営学にかかわるテーマを選ぶ。 できるだけ1次データ収集して分析する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ・ 選考基準 演習での取り組み状況 (演習への積極性、卒論進行状況、出席状況、ゼミ活動への参加度など) により、総合的判断します。 ・ 授業計画並びに授業及び学習の方法 マーケティングや流通はもちろん、経営学分野の現象 (問題) を卒論のテーマとして自由に選び、毎回の個別演習では数人の報告担当者がレジュメを作成・報告し、議論を行う。 最終回に卒論報告会を開催する。 注) この演習は基本に対面授業を行います。なお、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態をオンラインへ変更する可能性があります。			
教科書・参考書等 必要に応じて資料を配布します。			
オフィスアワー 随時、研究室 (南キャンパス 3号館 3階) にて受け付けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ゼミ生同士がお互いの卒論テーマに関心を持ち、個別演習やそれ以外の時間においても普段から議論や相談をすること。 指導員と十分な相談や議論を行うこと。 演習に迷惑をかけるような行動、遅刻、無断欠席がある場合には単位を与えません。			

ナンバリングコード B4GE0-cdeE-20-Ep4 授業科目名 (時間割コード: 334192) 個別演習(西成) Special Seminar まちづくり・デザイン研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 4	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目	まちづくり論、地域活性化プロジェクト、 地域をデザインする思考と実践	
	履修推奨科目	観光・地域振興コース関連科目	
学習時間 研究発表・作業等90分 × 30回 + 自学自習(準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 衰退する地域には何が必要なのでしょうか、高齢過疎化は問題なのでしょうか。 これまで着実に作りあげられた人口拡大社会の仕組みを根本から見直し、環境・エネルギーや合意形成(政治)の問題に対応する新たな社会づくりが「まちづくり」に求められています。 本ゼミでは、「デザイン」という観点からこうした問題の解決を考えていきます。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くような“デザイン”ではなく、「具現化するプロセス」そのものを「デザイン」と呼んでいます。社会の仕組みが大きく変化する今だからこそ、新たな発想で地域に価値を生み出していく必要があります。 人も思考も創造的に、ゼミ活動も楽しく創造的にいきましょう。			
授業の目的 学生自身が自分の問題意識・興味関心を明確化し、主体的な学びを得ることが目的です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①研究の思考方法・やり方を習得する 重要なことは、自分自身の問題意識を明確化し、認識することです。 ②プロジェクトの運営能力を身につける 実社会で求められていることは何か、地域の問題を解決するために、複数人でプロジェクトを行う運営能力を身につけます。			
成績評価の方法と基準 ・令和4年度個別演習選考基準 基本的に希望者は継続して受け入れます。 ・令和4年度個別演習単位認定方法 研究への取り組み姿勢と成果。ゼミ活動への主体的参加。 ルーブリックを成績評価基準の一つとして用います。 ・令和4年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 卒業論文は読み手に一定のクオリティを超えた知的刺激を与えなければなりません。 それぞれの問題意識・興味関心からオリジナリティのある研究に取り組んでほしいです。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ≪選考基準≫ 選考基準は「やる気(本気で取り組めるか)」と「適性(興味や自主性)」です。 ≪授業計画並びに授業及び学習の方法≫ 本ゼミでは、①個人研究と②プロジェクトが二本柱です。 ①個人研究(主に4年生) 「まちづくり×○○」 この○○に各自の興味・関心を入れてください。 「研究」はすでに世の中で明らかになっていることを「学ぶ」のではなく、これまで明らかとされていなかった知見や事柄を「追及」していく極めて創造的な思考活動です。 学生自身が現段階では気付いていない、各自の深い問題意識・興味関心を自分自身で見出すことが最大の目的ともいえます。 昨年までの卒業論文タイトルをいくつか紹介します。			

卒業論文

- ・自治体におけるInstagramを活用した情報発信の現状と課題に関する研究
- ・塩江における温泉地としての繁栄と衰退に関する研究
- ・子育て環境の変化に対応した「子ども食堂」に求められる多様な役割に関する研究
- ・町の盛衰に着目した高松市常磐町商店街の歴史的変遷に関する研究
- ・官民連携による共創の場づくりに関する研究
- ・空き家の発生しやすいエリアを対象とした現状分析とその対策に関する研究
- ・シビックプライド醸成要因に関する基礎的研究—高松で活動する6名の対話を通じて
- ・長期的なエリアリノベーションにおける段階的発展要因に関する研究
- ・理想地図づくりによるコミュニティの主体意識形成に関する実践的研究
- ・石清尾八幡宮の伝統的祭礼に関する研究
- ・銭湯にみる高松の都市生活とその変遷に関する研究
- ・公共空間における芸術・音楽を通じた文化政策に関する研究
- ・高松市内におけるシンボルとしての「鎮守の森」に関する研究
- ・森林を活用した医療・福祉行為に関する事例研究 など

詳しくは研究室のWebページから卒論要旨を参照してください。

<http://www.ec.kagawa-u.ac.jp/~nishinari/student.html>

②プロジェクト（主に3年生）

毎年、プロジェクト内容やテーマは変わっており、ゼミに集まったメンバーや学生自身の興味関心によってプロジェクト内容は決めていきます。

また、進め方としては個人で進めるプロジェクトや調査もあり、必ずしもグループやメンバー全員で進めるものではありません。

なお、ゼミは基本的に対面で実施しますが、一部の授業回では遠隔とする可能性があります。

今後の状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

適宜紹介します。

オフィスアワー 木曜日3時限目 南3号館3階西成研究室にて（その他、随時受け付けます）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習で学んだ「研究のやり方」をもとに、正しくも面白い「研究」に取り組むことを期待しています。

「研究」と「プロジェクト」において、3年生を指導してください。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 324157) 個別演習 (朴恩) Special Seminar 卒業論文を書く	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 E	単位数 4	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	会計学総論、株式会社社会計、監査論	
	履修推奨科目	会計学総論、株式会社社会計	
学習時間 講義90分×15回＋自主学習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 ここでは、それまでの会計分野の内容に関してより高度な理論と実践を身に着けます。これまでの講義と3年次の演習が知識の習得に重点を置いていたとすれば、個別演習では興味のある一つ分野を深く掘り下げ、問題を発見し、論理的に解決して行きます。			
授業の目的 3年次の演習はさまざまな授業からの関心領域を会計分野に絞っていくプロセスで、知識の習得が中心にあったといえます。 個別演習は、授業の展開は3年次の演習と同様、プレゼンテーションと討論の形式ですが、自分の卒業論文作成のプロセスを他のゼミ生と共有し完成して行く点で大きく違います。自分の考えが形となり、人々に伝わり、討論の対象になることで、今まで習得した知識が活かされる実感が得られ、自分の論理がまとまります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 一つのテーマに関して、論理的な思考ができる。 2. 論理的な思考をまとめ、文章をとおして他人を説得することができる。			
成績評価の方法と基準 卒業論文作成の進行状況、態度などを重視します。さらに、進行状況を報告するに当たり、浮かび上がるさまざまな疑問点をどう解決していくかも重要なポイントとなります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・個別演習選考基準 卒業論文のための準備や取り組み状況を見て、判断します。特に、演習での総合評価が主な判断基準となります。 ・卒業論文の作成要領と単位認定方針 卒業論文の作成は以下のプロセスで指導し、取り組みの態度と成果をみて、総合的に判断します。 <p>4月－5月 3年生の演習を通して、自分が興味を持つテーマを複数取り上げて、それに関する簡単な報告を行います。論文のテーマ探しの時間です。</p> <p>6月－7月 テーマをひとつに絞って、そのために必要な参考文献や論文などを探し、そこからそのテーマを選んだ理由や論文の意義、目次と各章への大まかな内容を決めていきます。7月の最後の個別演習では目次が確定します。ここでは、選んだテーマに関する多くの資料と情報を探ることが重要となります。</p> <p>8月－9月 (夏休み中) 論文テーマに関連する資料を徹底的に探し、後期の論文作成に備えます。</p> <p>10月－11月 毎回1章ずつ論文を作成・報告してもらい、個別に細かい指導を行います。次の回には修正分と新しい章を用意します。(小グループでの個別指導体制)</p> <p>12月 論文を書き上げます。</p> <p>1月 細かい修正作業後、完成論文を提出します。</p> <p>注意：対面授業の実施を基本としますが、状況によって柔軟に対応します。</p>			
教科書・参考書等 教科書の指定はありません。			
オフィスアワー 木曜日 2 講目 (10:30-12:00) 南キャンパス3号館3階 (朴恩研究室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 論文作成のためには、根気強く関連分野に関心を持ち続ける必要があります。			

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324150) 個別演習 (朴鏡) Special Seminar 管理会計の理論と実践	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月3	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	会計学関連授業科目	
	履修推奨科目	経営学関連授業科目	
学習時間 授業90分×30回＋自学自習 (準備学習60時間＋事後学習60時間)			
授業の概要 この授業では、管理会計の理論と実践に関する研究の指導を行う。 前期では、卒業論文の研究計画書を基にゼミ生による発表を行うほか、意思決定、原価管理、業績評価などに関する文献研究を行う。 後期では、各自が設定した研究テーマに関連する文献をレビューしてもらい、卒業論文の完成に向けて論文指導を行う。			
授業の目的 管理会計の理論と実践に関する基礎知識を身につける(DPの「知識・理解」に対応)とともに、経営意思決定、原価管理、業績評価等の諸問題について管理会計情報を用いて分析できるようになる(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経営管理プロセスにおける管理会計の役割について説明できる。 2. 管理会計情報を用いて代替案間の優劣を評価できる。 3. 管理会計情報が人や組織の意思決定に及ぼす影響について説明できる。			
成績評価の方法と基準 ・2022年度個別演習選考基準 演習の成績による。 ・2022年度個別演習単位認定方法 出席状況、ゼミ活動への参加度、卒業論文への取り組み、報告内容などを総合的に評価して決定する。なお、無断欠席3回以上の場合は単位を認定しない。 ・2022年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 本文20,000字以上で、論理性、新規性を重視して評価する。その他、作成要領については個別演習の中で別途指示する			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 オリエンテーション 第2回～第6回 研究テーマの選定と研究計画の発表 第9回～15回 管理会計文献の輪読・討論 第16回～30回 卒業論文発表と個別指導 この授業は基本的に対面授業を行うが、一部の授業回では遠隔授業を行う場合もある。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。 【自学自習に関するアドバイス】 ・各回の授業内容に関連する資料を熟読してから演習に臨むこと (毎回2時間程度の予習が必要である) ・授業中に取り上げたトピックスや例題等を復習すること (毎回2時間程度の復習が必要である)			
教科書・参考書等 テキストと参考書は初回の授業で紹介する。			
オフィスアワー 月曜日10時30分～12時00分、南キャンパス2号館2階 朴研究室において随時、質問・相談などに応じる。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 卒業論文の進捗状況に応じて授業時間や日程を調整する場合がある。			

ナンバリングコード B4GE0-cebE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 334180) 個別演習 (原) Special Seminar 観光と地域活性化のアクションリサーチ	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	地域活性化論、エコツーリズム論	
	履修推奨科目	地域活性化論、エコツーリズム論	
学習時間 授業90分×25回程度＋フィールドワーク＋自学自習 (準備学習80時間 + 事後学習40時間)			
授業の概要 教室での学修とフィールドでの実践により、地域活性化につながる観光振興・地域振興策を企画・実践する。(このような手法をアクションリサーチという) 県庁・市役所・町役場、企業、農協・漁協、NPO、住民等とともに活動する。 社会が大学教育に強く求めているチャレンジ精神、課題探求・解決力が身につくが、そのためには行動力、思考力、コミュニケーション力が要求される。			
授業の目的 地域活性化につながる観光振興・地域振興策を企画・実践することにより、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. チャレンジ精神が身につく。 2. 課題探求・解決力が身につく。 3. コミュニケーション力が身につく。 4. 能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。			
成績評価の方法と基準 ・個別演習 授業およびフィールドワークへの参加態度 (積極性など)・参加内容 (取組内容)、各種報告会での発表内容、卒論等により総合的に判断する。 ・卒業論文の作成要領と単位認定方針 演習での課題を卒論にする。20,000字程度が目安だが、量より質を重視する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ・選考基準 演習でのレポートおよび取組姿勢によって選考する。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 1年間かけて、教室での学修とフィールドでの実践との融合をはかる。 第1回～5回 研究史の整理と課題設定 第6回～10回 第1次フィールド調査報告 第11回～15回 第2次フィールド調査報告 第16回～20回 卒論中間報告 第21回～25回 第3次フィールド調査報告 第26回～30回 卒論最終報告 ※この授業は基本的に対面で行う。なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。 <自学自習のためのアドバイス> 第1回～5回 研究史の整理と課題設定について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第6回～10回 第1次フィールド調査報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第11回～15回 第2次フィールド調査報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第16回～20回 卒論中間報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第21回～25回 第3次フィールド調査報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第26回～30回 卒論最終報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間)			
教科書・参考書等 とくになし			
オフィスアワー 木曜3限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 卒論作成に向けて「読む」「調べる」「考える」「書く」「発表する」技術にこだわる。受講生は読むこと、調べること、考えること、書くこと、発表することに慣れる必要がある。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 314127) 個別演習 (福村) Special Seminar 応用経済学	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 福村 晃一	関連授業科目	マクロ経済Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 上級マクロ経済学、上級ミクロ経済学、統計学、計量経済学Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	マクロ経済Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 統計学	
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 この授業では、公共経済学が含まれる応用経済学に関して、学習・研究を行っていきます。 その際、実証分析などのデータの取り扱い方法についてもできる限り勉強していきます。 これまでに学習したミクロ経済学やマクロ経済学といったツールを実際の社会の経済現象にあてはめて分析していくのが、応用経済学です。 実際の経済現象、政策や企業活動などを経済学の観点から分析して、よりよい社会にする方策を考えるという経済学の醍醐味を一緒に学んでいきましょう。 前期は、卒業論文のテーマ決定・進捗報告と、3年生の教科書の輪読のサポートが主な内容です。 後期は、卒業論文の進捗報告・3年生のゼミ論文の作成のサポート、および卒業論文の完成が主な内容です。			
授業の目的 現実の社会における様々な経済現象やそれに対応した政策を、経済学の立場から分析するために必要な理論上の概念について深く学ぶ。 その結果、官庁・企業などで政策や業務計画などの企画・立案・推進・評価などを行うために必要な、応用経済学に関する基礎的な知識や考え方を習得する。 また、それらを学習する際に関連する統計データの取り扱い方法についても学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 応用経済学で用いられている分析の手法や結果の解釈の仕方について説明できる。(DPの知識・理解 (21世紀型市民及び学士 (経済学) として) と対応) 2. 現実世界での様々な問題について、応用経済学で用いられている手法を用いて、解決策を提案できる。(DPの問題解決・課題探求能力と対応)			
成績評価の方法と基準 個別演習の成績は、発表や議論、運営への貢献、卒業論文作成のプロセスを総合的に判断する。 卒業論文はゼミ論文を個人で発展させたものでもよいし、別のテーマで執筆しても構いません。 ただし、卒業論文はゼミ論文と完全に同一内容としてはいけません。 卒業論文の成績は、卒業論文の独自性や付加価値などに関するルーブリック評価表を用いて総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【2022年度個別演習選考基準】 2021年度演習履修生については、原則として受け入れ、出席回数・発表内容など、演習への取り組みを総合的に判断する。 それ以外の学生については、成績・面談などを通じて総合的に判断する。 【2022年度卒業論文の作成要領】 日本語で2万字程度の分量を目安としてワープロソフトを用いて英語もしくは日本語で執筆する。 ただし、評価の対象となるのは、字数ではなく内容である。 内容は経済学に関連するものであればよい。 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 社会情勢などの影響により、変更が生じる場合があります。 この科目は原則全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			

第1回 顔合わせ・卒業論文進捗報告担当決め
第2回-15回 卒業論文テーマ決定・進捗報告・関連文献の報告
夏季 ゼミ合宿での卒業論文進捗報告・3年生のゼミ論文のネタへのコメント
第16回-29回 卒業論文進捗報告
第30回 卒業論文報告会

【授業の方法】

講義形式、および、プレゼン、ディスカッション、グループワークなどの形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

卒業論文は、自主性が重要です。

教科書・参考書等
特になし

オフィスアワー 毎週火曜日4時間目に、南3号館2階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールで予約を取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

経済学を勉強して、役立てられるようになるためには、長い期間の練習が必要です。一步一步着実に勉強することが重要です。

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314120) 個別演習 (藤原) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	演習 (藤原)	
	履修推奨科目	演習 (藤原)	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 卒業論文の書き方を学びながら、卒業論文を作成する。そして卒業論文を執筆する過程で調べた内容を授業中にローテーションで発表する。その他の学生はそれに対して意見を言い、発表者はそれを踏まえて卒業論文をさらに発展させていく。卒業論文のテーマは原則として金融に関係したこものを選ぶこと。			
授業の目的 ・卒業論文を執筆する。 ・他人の意見に対して自分の意見を述べる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・論文作成能力を身に付けることができる。 ・他人の意見に対して自分の意見を述べるができる。			
成績評価の方法と基準 ・令和4年度個別演習単位認定方法 出席状況・受講態度・卒業論文への取り組み姿勢などを総合的に評価する。 ・令和4年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 テーマは経済に関係することなら自由である。論文は20000字以上を原則とする。 出席状況、授業への取り組みを総合的に評価する。授業を無断欠席した場合は、単位を認めない可能性がある。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ・令和3年度個別演習選考基準 演習 (藤原) 修得者は、演習で学んだ内容を糧にして、卒業論文を書く意欲がある学生を受け入れる。それ以外の学生は、面接や成績によって総合的に判断する。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 授業形態は基本的に対面とする。 【授業計画】 第1回～第15回 卒業論文のテーマの探索 第16回～第30回 卒業論文の途中経過の報告 【授業及び学習の方法】 前期は、各自の卒業論文のテーマを探す。そしてテーマが決まった人から資料を調べて発表する。後期は卒業論文の途中経過をローテーションで発表する。 ゼミ生が望めば、1月末にゼミ3年生を相手に卒業論文発表会を行う。 【自学自習のためのアドバイス】 第1回～第15回 卒業論文のための資料集め・読み込み (60時間) 第16回～第30回 卒業論文の執筆 (60時間)			
教科書・参考書等 卒業論文の書き方に関する本を適宜紹介する。			
オフィスアワー 最初の授業で紹介する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 原則として経済に関連したテーマを卒業論文のテーマとして選ぶこと。			

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324136) 個別演習 (藤村) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤村 和宏	関連授業科目	観光および経営関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論B	
学習時間	講義90分×30回＋自学自習 (準備学習60時間＋事後学習60時間)＋卒業論文研究 (100時間)		
授業の概要 高校までの授業は、答えのある問題が与えられ、その答えの導き出し方の習得を中心に行われるが、大学の講義は、答えのない、解決すべき問題を自ら発見し、それを学術的な問いとして設定し、その解を自ら導き出す能力の習得するために行われる。そのため本演習では、観光やマーケティング、消費者行動に関する理論的・実証的研究を通じて、自ら問題を発見し、それを学術的な問いとして設定し、その解を創り出すために、理論的な考察によって仮説を構築し、それを量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得する。 具体的には、テキストを輪読し、観光やマーケティングの研究に必要な基礎知識を習得する。さらに、観光やマーケティングの学習においては、自ら経験し五感で感じることで、そこから問題を発見することが重要であることから、企業や地域見学のための国内旅行、あるいは異文化体験のための海外旅行を行う予定である。 また、研究テーマを自ら設定して理論的・実証的に考察を行うとともに、3年生の演習にも参加し、下級生を指導しながら自らも学ぶ必要がある。 卒業論文については、12月あるいは1月に行う合宿で発表し、討議を行う。			
授業の目的 観光やマーケティングに関する研究を通じて、自ら問題を発見し、それを学術的な問いとして設定し、その解を創り出すために、理論的な考察によって仮説を構築し、その仮説を量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光やマーケティングにかかわる問題に関心を持つことができる。 2. 新聞や専門誌の観光やマーケティングに関する記事を理解・解説できる。 3. 仮説を構築し、検証するための技法を習得できる。			
成績評価の方法と基準 <個別演習> 個別演習単位の認定は、出席状況 (10%)、レジュメによる報告内容 (20%)、卒業論文研究活動および論文 (50%)、討議内容 (20%) により総合的に判断する。 <卒業論文> 卒業論文の作成においては、学生らしい視点で観光やマーケティング、流通、消費者行動などにかかわる問題を理論的および実証的に考察しなければならない。なお、卒業論文は以下の条件の中の2つ以上を満たしていなければならない。 1. 外国語文献を用いる。 2. 質的あるいは量的調査を実施する。 3. 多変量解析ソフト (SPSS) を用いて分析する。 書式および分量は、以下の要件を満たしていなければならない。 1. 分量は20,000字以上で、A4判上質紙にワードプロセッサで書くこと。 2. 表紙、目次、参考文献、頁番号 (表紙および目次以外の頁に通し番号で) は必ずつけること。 単位認定は研究内容の独創性 (30%) と考察内容 (70%) に基づいて行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス <選考基準> 個別演習選考基準の以下の4点である。 (1) 演習での報告および討議内容 (2) 卒業論文のテーマと作成意欲 (3) 演習への参加状況および態度 (4) 演習でのグループ研究活動の状況と発表内容			

<授業計画並びに授業および学習の方法>

第1回 ガイダンス

第2回～15回 輪読によってマーケティングに関する理論の習得と討議

第16回～30回 輪読によってマーケティングに関する理論の習得と討議+ 卒論の研究発表

また、マーケティング研究においては、現場を自ら体験し考える必要があるため、国内あるいは海外の企業や商業施設、観光地などの視察・調査を行なう。ただし、コロナ感染状況によっては、県内の企業や観光地などを視察・調査の対象とする。

この科目は、全回対面方式で講義を行います。ただし、状況によっては、遠隔方式に変更する可能性もあります。

【自学自習に関するアドバイス】

第1回～30回 各回の文献を読むとともに、重要な概念や理論、関連ケースを調べる。(各回4時間)

また、卒論論文研究を理論的・実証的に行う。(100時間)

教科書・参考書等

教科書は使用するが、どのような内容のどの程度の水準のものを用いるのかは学生と相談して決める。

また、参考書は随時指示する。

オフィスアワー 月曜日：10時～12時 ゼミ終了後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

3年生の演習にも参加し、彼らを指導することで、自らも学ぶ。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 334196) 個別演習 (二ツ山) Special Seminar ゼミ	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 二ツ山 達朗	関連授業科目	国際観光論 観光産業論	
	履修推奨科目	国際観光論 観光産業論	
学習時間 講義・発表・討論90分×30回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)(+フィールドワークを行う場合がある)			
授業の概要 本授業では、観光人類学・観光社会学で議論されてきた先行研究をふまえ、質的(場合によっては量的)調査法を用いることで、観光現象に関わる諸問題を明らかにする卒業論文の執筆を行います。 具体的には観光人類学・観光社会学のテキストを輪読、フィールドワークによる臨地調査、授業内外での卒業論文の内容の発表を行うことで、より完成度の高い論文執筆を目指します。			
授業の目的 観光社会学・観光人類学に関する諸研究を整理し、それらに関する事例を知るとともに、課題となっている論点を理解できる。(DPの「知識・理解」に対応) インタビューや参与観察などの質的調査方法を理解し、調査から得られたデータを発表する力を身につけることができる。(DPの「地域理解」に対応) 発表や論文執筆を通じ、プレゼンテーション力や文章作成能力を身につける。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光学・人類学等の先行研究を理解し、関連する概念を整理できる。 2. 文献の調べ方を習得できる。 3. 研究課題を文章化できる。 4. インタビューや参与観察などの質的調査方法を習得できる。 5. 研究のプレゼン方法を習得できる。			
成績評価の方法と基準 評価にはルーブリック評価表を用い、 ①事前準備・復習、②参加姿勢、③専門知識の習得と活用、④研究作法の習得、⑤他社との協調とゼミへの貢献度などの観点から評価する。 卒業論文: 本文20,000字程度(上限は設けない)。 以下が評価基準となる <ul style="list-style-type: none"> ・社会的かつ学問的貢献がなされていること ・先行研究をふまえ批判的な議論が展開されていること ・文献やフィールド調査をもとに実証的もしくは説得的な分析がなされていること ・調査手法や分析手法が明記されていること ・独自の視点をもとにした議論・結論が示されていること ・引用方法が正しく的確であること 			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 各自のテーマについて調査・報告・討論を繰り返すことで、卒業論文を完成させる。 第1回 オリエンテーション 第2回～第7回 調査報告 + テキスト輪読1 第8回～第15回 研究課題報告 第16回～第22回 夏休み課題報告 第23回～第30回 卒論最終報告 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 これまで履修した観光関連科目の内容を復習してくる(4時間) 第2回～第7回 テキストを読み、内容の要約と自身の考えをまとめてくること。発表者は発表準備・レジュメの作成を行うこと(24時間) 第8回～第30回 報告者:報告準備・レジュメの作成を行うこと。報告者以外:報告内容についてコメントを考えること。全員:テキストを読み自身の考えをまとめてくること。(各回4時間)			
臨地におけるフィールドワーク、合宿などを実施することがあるので参加できること。 3年生演習との合同発表をすることがあるので、その際は4限・5限に参加できるようにすること。			

【授業及び学習の方法】

この科目は対面により実施することを基本とします。
なお状況によっては一部遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

指定しません。適宜授業内でプリント等を配布します。

オフィスアワー 授業終了後に応じます。

研究室(南3号館3階)への訪問時間については授業時間内かSNSで伝えます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【令和3年度演習シラバスの個別演習単位認定方法】

課題、授業内での討論への参加・貢献度、卒業論文制作過程などを総合的に評価する。

【令和3年度演習シラバスの卒業論文の作成要領と単位認定方針】

本文20,000字以上（上限は設けない）。社会的あるいは学問的貢献がなされていること、先行研究をふまえて批判的な議論が展開されていること、文献やフィールド調査をもとに証明されているもしくは説得的であること、分析方法が明記されていること、独自の視点をもとにした議論・結論が示されていること、引用方法が的確であること、が評価の対象となる。

【令和3年度演習シラバスの個別演習選考基準】

演習の成績や卒論のテーマなどを基に、面接を実施して判断する。他の演習修了者については、演習の成績と卒論のテーマを考慮したうえで、面接によって判断する。

ナンバリングコード B4BSN-cadE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324155) 個別演習 (古川) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cadE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、商品システム論、資源エネルギー論、商品実験		
学習時間 講義90分×30回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 「商品」・「環境」・「地域活性化」について総合的な研究を行い、卒業論文を作成します。 商品：商品学の視点から見た商品の適商性に関する研究 環境：商品学の視点から見た循環型社会に関する研究 地域活性化：商品学の視点から見た地域資源の再評価に関する研究 「商品」・「環境」・「地域活性化」のどの分野においても、フィールド調査を取り入れた研究を行います。その他、工場見学なども予定しています。			
授業の目的 「商品」・「環境」・「地域活性化」について、商品学の視点から、基礎的な考え方を身につけ、卒業論文を作成することを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①商品学の視点から見た商品の適商性について、基本的な考え方を身につける。 ②商品学の視点から見た循環型社会について、基本的な考え方を身につける。 ③商品学の視点から見た地域資源について、基本的な考え方を身につける。 ④商品学の視点から、各自で決定したテーマに基づき卒業論文を作成し、自分の考えを構築することができる。			
成績評価の方法と基準 【個別演習】 出席状況と取り組み姿勢、卒業論文により評価します。 【卒業論文】 設定した各自のテーマをもとに、資料やデータを収集し、2万字以上にまとめます。その他の詳細については別途指示します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【選考基準】 研究テーマに関心があり、ゼミ活動全般に積極的に取り組む意欲と協調性のある学生を希望します。フィールド調査を取り入れた研究を行いますので、積極性を重視します。選考については、演習での出席状況と学習態度により選考します。 【授業計画】 第01～03回：第1回フィールド調査（於：担当地域 時期：4月） 第04回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第05～07回：第1回フィールド調査（於：担当地域 時期：5月） 第08回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第09～11回：第2回フィールド調査（於：担当地域 時期：6月） 第12回：第2回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第13～15回：第3回フィールド調査（於：担当地域 時期：7月） 第16回：第3回フィールド調査の報告 第17回：卒論指導 第18回：卒論指導 第19回：卒論指導 第20回：卒論指導 第21回：卒論指導 第22回：卒論指導 第23回：卒論指導 第24回：卒論指導 第25回：卒論指導 第26回：卒論指導 第27回：卒論報告会に向けた指導 第28回：卒論報告会に向けた指導 第29回：卒論報告会に向けた指導 第30回：卒論報告会に向けた指導			

なお、状況により、対象とするフィールドを変更する場合があります。

【授業方法】

対面で授業を行います。新型コロナウイルスの状況により、変更する場合があります。
教科書の輪読ならびにフィールドワークを行います。
フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| (1) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (2) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (3) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (4) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理 | (6時間) |
| (5) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (6) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (7) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (8) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理 | (6時間) |
| (9) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (10) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (11) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (12) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理 | (6時間) |
| (13) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (14) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (15) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 | (4時間) |
| (17) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (18) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (19) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (20) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (21) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (22) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (23) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (24) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (25) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (26) 卒論執筆 | (4時間以上) |
| (27) 卒論報告会用PPT作成とプレゼン練習 | (4時間) |
| (28) 卒論報告会用PPT作成とプレゼン練習 | (4時間) |
| (29) 卒論報告会用PPT作成とプレゼン練習 | (4時間) |
| (30) 卒論報告会用PPT作成とプレゼン練習 | (4時間) |

* 卒業論文テーマについては、教員と学生間で相談したうえで決定します。

教科書・参考書等

教科書は適宜指示します。
参考書は随時指定します。

オフィスアワー 金曜日3時限目
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

卒業論文の作成にあたり、必ずフィールドワークを行います。積極的にフィールドワークに取り組むことができる学生を希望します。

学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314112) 個別演習 (星野) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	経済数学入門, 経済数学, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II, 上級ミクロ経済学	
	履修推奨科目	経済数学入門, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II	
学習時間 授業90分×30回+自学自習 (準備時間60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 経済現象や経済問題に対するミクロ経済学的な視点・発想や分析手法を含んだ卒業論文の作成を目指して, 研究報告や全体討論を行います.			
授業の目的 ミクロ経済学の概念と分析手法を習得し, 経済現象や経済問題を経済学的に探究する能力を身につけます. さらに, コミュニケーション能力とプレゼンテーションスキルを養います.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 自ら注目する経済現象や経済問題について, その説明や解決に関わるミクロ経済学の知識を見つけ出すことができる (DPの「b. 知識・理解」に対応). 自ら課題として設定した経済現象や経済問題について, ミクロ経済学の観点から説明または解決することができる (DPの「c. 知識・理解」に対応). わかりやすい報告資料の作成と発表を行うことができる (DPの「a. 言語運用能力」に対応). 			
成績評価の方法と基準 <ul style="list-style-type: none"> 個別演習: 参加態度, 発表内容, 提出課題を総合評価して認定します. 無断欠席は厳禁です. 場合によっては単位を認定しません. 卒業論文: 字数は原則として2万字以上とします. 作成要領の詳細は個別演習の中で説明します. 単位認定はテーマに関わる先行研究や理論を踏まえているか, 展開は論理的か, 論文としての形式が整っているかなどの観点から判断します. なお1年間を通した作成プロセスにおいては途中報告を行い, 教員の指導を受けること. 指導を受けずに提出された卒業論文は単位を認定しません. 			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス <ul style="list-style-type: none"> 選考基準: 演習 (星野) の履修者はその履修状況によります. それ以外の者は演習 (星野) の選考基準に従います. 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回～第13回 テーマ絞り込みと文献探索の報告・討論, 論文の書き方の学習 第14, 15回 テーマ, 全体構成案, 基本文献リストの発表 第16回 ガイダンス 第17回～第28回 研究報告と全員討論, 個別添削指導 第29回 卒業論文の最終点検 第30回. 卒業論文要旨の発表と点検 【授業及び学習の方法】 <ul style="list-style-type: none"> 個人報告, グループワーク, 全員討論を組み合わせで行います. この科目は全回対面授業を行います. 【自学自習に関するアドバイス】 <ul style="list-style-type: none"> 前期では春休みの課題レポートに基づいて, テーマ決定のための発表と討論を行うとともに, 論文の書き方に関連するグループワークを行います. (30時間) 前期末を目途にテーマを絞り込み, 全体構成案と基本文献リストを作成します. (30時間) 夏休みには先行研究の確認のために5000字程度のレポートに取り組みます. 後期では各自の研究報告と全員討論を行い, 個別指導を受けます. (30時間) 12月中旬を目途に卒業論文の初稿を完成させます. (30時間) 2月中下旬 (予定) にはゼミ単位で卒論報告会を開きます. 			
教科書・参考書等 【教科書】 指定しません. 【参考書】 論文の書き方に関するものも含めて適宜紹介します.			
オフィスアワー 火曜日4時限目 (予定), 南キャンパス4号館3階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> 不測の事態による卒業延期を避けるために, 卒業論文の作成は計画的に進めてください. 参考文献の探索は, 根気強く継続的に行うことが肝要です. 卒業論文は通常の講義の定期試験やレポート課題のように「出してそれで終わり」というものではなく, 報告と改訂を繰り返して完成, 提出に至るものです. 			

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324140) 個別演習 (松岡) Special Seminar 経営組織のマネジメントの研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月3	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目 経営組織論、人的資源管理論A、人的資源管理論B、 経営戦略論、調査データ分析Ⅰ、調査データ分析Ⅱなど		
	履修推奨科目 経営組織論、人的資源管理論A、人的資源管理論B、 経営戦略論、調査データ分析Ⅰ、調査データ分析Ⅱなど		
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 卒論作成のための研究指導を行う。			
授業の目的 卒業論文の作成において必要となる専門分野に関する応用的な知識や研究遂行能力を身につける。また、学生相互にコメントをしあえる環境を作り、ゼミ全体として質の高い研究成果を出せるように取り組む。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 組織理論についての応用的な知識を述べることができる (学士課程のDP「b: 知識・理解」に対応) 2. 自身の研究テーマにかかわる文献のレビュー、調査の設計、データの収集、データの分析と考察、論文の執筆を行うことができる (学士課程のDP「c: 問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 卒業論文の進捗経過について、レジュメ、パワーポイントなどを用いて、分かりやすくプレゼンテーションすることができる (学士課程のDPの「a: 言語運用能力」に対応) 4. 他者の研究 (4年生卒論, 3年生プロジェクト研究) に対して、建設的な批評や助言を行うことができる (学士課程のDP「a: 言語運用能力」および「b: 知識・理解」に対応)			
成績評価の方法と基準 個別演習: 受講態度 (準備状況および討議への貢献度など)、個別研究の進捗状況により、総合的に評価する。評価にはルーブリック評価表を用いる。 卒業論文: 下記の要件を満たしている場合に卒論としての提出を許可し、その内容に応じて評価を行う。 ・経営組織のマネジメントに関連した研究テーマが選択されていること ・既存研究を踏まえた上で書かれていること ・独自にデータの収集・分析を行って作成された実証研究であること ・研究論文作成のための様式にのっとって書かれていること (詳細はゼミ時に指示) ・分量の目安は20,000字以上 ・評価にはルーブリック評価表を用いる			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 ・演習への取り組み状況および研究計画書により選考する。 ・他演習からの移籍の場合には、研究計画書および面接により選考する。 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 卒論の進捗報告と質疑が中心となる。おおよその予定は以下の通り。 (前期) 第1回 イントロダクション 第2回～第14回 進捗報告 第15回 卒論中間報告会 (3年生と合同) (後期) 第16回～25回 進捗報告 第26回 3・4年合同ゼミ 第27～29回 個別指導 第30回 卒論報告会 (3年生と合同)			

受講者は、2～3週に一度程度の頻度で報告を行う。報告担当者は、プレゼン資料を作成した上で人数分コピー・配布し、プレゼンテーションと質疑への応答を行い、今後の研究課題を明確にしていくことが求められる。他の受講生は、報告内容に対して、質問・コメントを行うことが求められる。卒論提出後の報告会は公開の形式で実施する。

*授業は対面を基本とする。

*毎回の授業あたり各2時間程度の準備学習と事後学習が必要となる。卒論の仕上げ期間中はさらに集中した取り組みが必要となる。

教科書・参考書等

特定のテキストは用いないが、各人の卒業論文作成上有益な書籍・論文は、随時紹介する。

オフィスアワー 月曜5限、南7号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席厳禁

アンケート調査により論文を執筆しようとする者は、調査データ分析Ⅰおよび調査データ分析Ⅱを履修することを強く推奨する。

ナンバリングコード B4BSN-bcdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324148) 個別演習 (宮脇) Special Seminar エンパワーメントと管理会計情報	科目区分 専門教育科目	時間割 前期金5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	管理会計および経営学関連の授業科目	
	履修推奨科目	会計学・経営学関連の授業科目	
学習時間	講義90分×30回+自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間+α)		
授業の概要 このゼミの目標は、ゼミナール活動を通して、個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章作成能力）を高め、様々な「人間力」を成長させることです。社会に出て必要な力、就職活動で求められる力、そして、ゼミの2年間（特に3年生の1年間）で身に付けなければならない力は、全てフラクタル（自己相似）な関係にあり、無関係ではありません。みなさんには、「社会に出て生きていく」ことから逆算した準備が必要であり、そうした意識を持った上で、自分を見つめ、成長していこうとする意志と行動力が求められています。			
授業の目的 社会と大学とゼミナールをフラクタル(自己相似)な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技法・マナーを、仲間との相互作用を通して身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章・資料作成能力）を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。			
成績評価の方法と基準 〔個別演習〕 (1)出席（原則：毎回）、参加態度、プレゼンテーションおよび研究活動 (2)卒業論文 〔卒業論文〕（20,000字以上） (1)演習および個別演習の研究活動の成果を反映しているもの (2)学術的な貢献があり、かつクリエイティブでオリジナリティーに溢れるもの			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 〔選考基準〕 演習の結果（成績がA以上）、基本能力、協調性および面接 〔授業計画ならびに授業および学習の方法〕 ※全回対面授業です。 (1)卒業論文作成に向けた資料の収集・分析および報告 (2)就職あるいは進学に必要なコンピテンシーを高める （読解・題名当てクイズ、グループディスカッション(民法・政治のしくみなど)、プレゼン寅さん、各種資格試験の勉強など） (3)3年生の演習指導 ※オプションとして、“Work Shop”では簿記を、“ELP(Effective Listening Practice)”では英語のリスニングを学習することができます。また、“ENJOG”ではウォーキングによる体力作りを行えます。 〔自主学習に関するアドバイス〕 (第1週～第30週) 卒業論文作成に向けた資料の収集・分析および報告の準備・改善（60時間+α） (第1週～第30週) カマタマーレ讃岐との共同プロジェクトの準備・運営（60時間+α）			
教科書・参考書等 随時指定			
オフィスアワー 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ※自分の足元をしっかりと見つめるとともに、将来を見据え、今できることを着実に積み重ねることが大切です。また、「学生の時にしかできないこと」にいろいろとチャレンジして欲しいと思っています。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314124) 個別演習 (持田) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級マクロ経済学	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級マクロ経済学	
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習 (卒業論文完成に向けての準備作業120時間)			
授業の概要 授業は3、4年生合同のゼミナール形式で行う予定です。 前期は、各自で卒業論文を進めつつ、定期的にゼミ内で進行具合をプレゼンテーション報告してもらいます。また、3年生と一緒に、ゼミで扱う経済学の知識を身につけ、理解を深めていきます。適宜、マクロ経済学の復習も行います。 後期は、卒業論文の完成に向けての取り組み、及びその報告がメインとなります。 この科目は、基本的には「対面」方式で実施予定です。 ただし、感染状況や大学の方針によっては、「遠隔」で実施する回もあります。			
授業の目的 テキストを輪読し、議論しあうことで現代社会や経済学に対する理解を深めると同時に、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
○ 各自で目的を持って、卒業論文へ取り組み、プレゼンテーションの際には、他者にわかりやすく自分の論文の面白さを伝えることができる。 ○ 人によって意見が分かれる可能性のあるポイントを発見し、複数の視点からの対立する意見・考え方を自ら勘案して、述べることができる。 ○ 現代社会の諸問題について、経済学の知識に基づいた客観的解釈ができ、それをわかりやすく他者に伝えることができる。			
成績評価の方法と基準 『個別演習』 ルービック評価表を用い、フィールドワーク、課題レポートを含む授業全般への取り組み態度を見て判断します。 『卒業論文』 報告会の様子も含めて、総合的に判断します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 『選考基準』 「演習」の履修状況を見て判断します。 『授業計画並びに授業及び学習の方法』 1. 授業のガイダンス 2～13. テキスト報告、卒論経過報告 14～15. 前期のまとめ 16. 後期のガイダンス 17～26. テキスト報告、卒論経過報告 27～28. 後期のまとめ 29～30. 卒論&テーマ報告会 (※公開)			
受講生の状況等に応じて、上記の計画が変化することもあります。 自主学習のアドバイス 1. 春休みの課題にしっかり取り組んでください 2～15. 就職・進路活動と平行して、各自の卒論をしっかり進めておきましょう 16. 特にありません 前期の成績表を忘れずに持ってきてください 17～30. 後期の授業科目と平行して、各自の卒論を早めに仕上げてください			
教科書・参考書等 初回の授業で決定します。			
オフィスアワー 初回の授業でお知らせします。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ みんなで卒業できるようにがんばりましょう！			

ナンバリングコード B4ECN-bceE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 314108) 個別演習 (姚) Special Seminar 日中経済の実証分析	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 姚 峰	関連授業科目	統計学入門	
	履修推奨科目	アジア経済論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 個別演習の前半では、日中経済に関する卒業論文を作成する目的でゼミ生の研究発表を指導し、必要に応じてデータの収集・整理・加工などの基礎知識と統計処理手法を補講する。後半では研究論文作成にあたり添削指導を行う。海外研修を実施する可能性がある。			
授業の目的 経済活動が加速的にグローバル化している中、日中経済発展の現状と国際貿易交流などを正確に再認識する。豊富な地域経済知識を身に付け、国際的に活躍できる人材になる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. アジア経済と社会情勢を客観的に正しく認識することができる。 2. 国際的な経済活動のなかで適切な行動をとることができる。 3. 統計分析手法を用いてアジア経済問題を解析できる。			
成績評価の方法と基準 研究討論の参加状況 (30%) とレポート (50%) 及び出席 (20%) による総合判定。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 選考基準：日中経済の実証分析に興味がある；積極性と協調性があり、無断欠席しないこと。			
授業形態 ：対面により実施することを基本とする。状況によって数回Zoomによるオンライン式 (適時周知する)。 授業計画並びに学習方法 ：			
第1回 ガイダンス 第2回 論文作成執筆指導 第3～5回 研究計画・進行状況報告 第6～15回 研究発表・討論 第16～17回 研究報告・卒論テーマの確定 第18～19回 途中結果報告 第20～27回 研究発表・討論 第28～29回 卒論研究発表 第30回 まとめ			
学習方法 ：			
1. 実証分析に必要な知識を勉強する。 2. 関心度の高い日中経済に関する研究題目を選定する。 3. 研究資料の収集・整理に努力し、積極的に研究発表を行う。 4. 研究発表はPPTなどを用いてプレゼンテーションを行う。 5. 研究発表の結果を生かし、卒論テーマ選定する。			
教科書・参考書等 ゼミ生と相談するうえ決定する。			
オフィスアワー 火曜日4校時、幸町南7号館3階、姚研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 個別演習単位認定方法：出席状況、研究討論とレポートによる総合判定。 卒業論文の作成要領と単位認定方針： 卒業論文はワープロによるものとし、図表を含めて2万字以上とする。 出席状況と研究討論の態度などを中心に、卒業論文の完成度を参考するうえ、総合的に判断する。卒業論文の詳しい作成要領などについては卒業論文指導時に説明する。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324133) 個別演習 (安井) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目	リスクと保険, 保険システム論等	
	履修推奨科目	リスクと保険, 保険システム論	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備時間60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 個別演習においては、卒業論文の作成が中心となる。毎回、担当者に卒業論文の中間報告をしてもらう。さらに担当者の報告に対して全員で討論を行う。			
授業の目的 卒業論文に必要な専門分野に関する応用的な知識や文章作成能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
卒業論文に関わるレジメないしレポートを書くことができる。 卒業論文に関わるプレゼンテーションができる。 卒業論文に関わる討論ができる。			
成績評価の方法と基準 <ul style="list-style-type: none"> ・個別演習 報告、授業への参加状況、レポート、卒業論文を総合して評価する。 欠席が多い場合には単位を認めることができない。 ・卒業論文 卒業論文は20,000字以上とする。詳細については、個別演習において説明する。 論理展開、説得力、独創性などの観点から総合的に評価する。 			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態 基本的に対面型式で行う。状況が変化した場合には別途指示する。 ・選考基準 演習における研究活動を考慮して、研究意欲の高い学生を受け入れる。 報告、授業への参加状況、レポートを総合して評価する。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 卒業論文作成に向けたガイダンス 第2回～第14回 卒業論文の中間報告 第15回 演習内卒論報告会 ・自学自習について 毎回、何らかの課題があるので、熱心に取り組むこと、 			
教科書・参考書等 教科書：演習で使用した書籍を使用する。 参考書：椋野他[2022]『はじめての社会保障』有斐閣、2000円程度。指示されてから購入すれば良い。 このほか適宜、指示する。			
オフィスアワー 時間：演習開講日の3時限とする。ただし、参加できない演習生がいる場合には、全員参加できる日時に変更する。 場所 ：安井研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席すること。万一欠席する場合には、その理由を書いた書類を提出すること（提出すれば出席と同じ扱いになるわけではない）。 卒業論文は20,000字以上とする。詳細については、個別演習において説明する。 論理展開、説得力、独創性などの観点から総合的に評価する。 就職活動等を理由に安易に休まないこと。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 324166) 個別演習 (山口) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 山口 尚美	関連授業科目	企業倫理、経営学史	
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×30回＋自主学習120時間			
授業の概要 本ゼミでは、卒業論文を執筆するための指導を行います。毎回、研究の経過報告をしてもらいます。			
授業の目的 これまでの学習を活かし、独自の問い（リサーチ・クエスチョン）を打ち立て、卒業論文を書き上げること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①独創的で深みのある問い（リサーチクエスチョン）を設定すること。 ②論理と客観的事実に基づき、明確な言葉づかいで論証すること。 ※DP（ディプロマ・ポリシー）との対応……上記の到達目標のうち、①はDP-abcに、③はDP-abに対応。			
成績評価の方法と基準 研究の姿勢、報告の内容、卒論の内容から総合的に判断します。 評価には、ルーブリック評価表を用います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>【選考基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本演習の修了者…基本的に受け入れます。ただし例外あり。 ・他演習の修了者…面接によって判断します。 <p>【授業計画】</p> <p>基本的に全回、卒業論文の指導になります。</p> <p>4-11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の指導 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の提出（教員へ） <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員からの指摘箇所を修正 ・卒論報告会の準備 <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒論報告会で発表 ・卒業論文の提出（最終） <p>※基本的に対面で行います。今後の状況次第で遠隔になる可能性もあります。</p> <p>【卒業論文の作成要領】</p> <p>本文20,000字以上、日本語で執筆すること。 問題設定に、既存文献・資料にはない独自の視点が盛り込まれていること。</p> <p>【学習方法】</p> <p>その都度、個別に指導します。</p>			
教科書・参考書等 なし			
オフィスアワー 水曜日10:30-11:30 他の曜日・時間が良い場合には調整しましょう。 急な訪問には対応できないので、事前にメールか口頭でアポイントを取ってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 研究を楽しんでください！			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 334197) 個別演習 (山崎) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 山崎 隆之	関連授業科目	観光産業論、マーケティング論A・B、 地域活性化論、まちづくり論	
	履修推奨科目	地域調査法、観光学概論、観光政策論	
学習時間 演習90分×30回+自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 観光は、旅行者の心理・行動や観光対象となる地域資源を起点に語られることが多いが、現地を体験せずに訪問を決定せざるをえない観光では、様々な媒体により意識的・無意識的に提供される情報が、旅行意欲の喚起、目的地の決定、体験の満足などにとって重要な要素となっている。 本ゼミでは、地域資源の魅力や特徴を表現することで消費者の心理・行動を観光へと向かわせる様々な媒体の存在に着目する。各自が研究テーマとする媒体を設定し、それぞれの媒体の観光における役割、効果、課題などを分析した上で、旅行者と地域の双方にとって有効な観光媒体のあり方(手法)について検討する。 個別演習では、3年次の演習で取り組んだ各自の研究テーマから発展した調査・分析をすすめ、卒業論文としてまとめる。			
授業の目的 広い視点で旅行者・観光媒体・観光対象からなる観光現象を理解する【b】と同時に、自律的に課題を設定し、調査・分析・考察・実践を行える【c】ようになることを目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光に関する様々な要素の関係性を図示できる。 2. 観光現象の特徴や傾向を詳細に説明できる。 3. 観光振興に資する具体的な手法を提案できる。			
成績評価の方法と基準 【個別演習】 ①各自の調査・分析への取り組み姿勢(50%)と②調査・分析の成果(50%)の総合評価とする。 【卒業論文】 自らが設定したテーマに基づく調査や分析・考察の結果を20ページ程度にまとめる。ページ数は目安であり、課題設定の独創性・新規性、内容の充実度、主張や結論の妥当性を重視する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 自分の研究テーマ・対象を定め、調査・分析・考察を行い、結果を卒業論文としてまとめるとともに、得られた結果を踏まえた具体的アウトプットを制作、もしくはそれに資する知見を得ることが望ましい。 基本的に授業時間は報告・議論の場とし、各自が自律的に授業時間外で作業をすすめることを求める。			
●授業計画 前期～後期：各自のテーマに基づく資料収集・フィールドワーク、分析・考察、アウトプットの検討・制作など ※適宜、個別演習履修生全体での中間報告・議論の場を設ける。			
【「調査テーマ⇒アウトプット」のイメージ】 ・文化庁「日本遺産」認定ストーリーの観光活用の実態⇒高松市の歴史・文化ストーリーの作成と活用方法の提案 ・観光関連口コミサイトの記載内容の特徴分類⇒口コミマナー啓発パンフレットの制作 ・個人の旅行記からみる観光体験の変遷と現代観光の特徴⇒自分の旅行記ホームページの制作 ※上記はあくまで例であり、学生からのユニークなテーマへの取り組みを歓迎する			
●選考基準 3年次演習への取り組み状況ならびに研究テーマにより判断する。			
【このゼミに向いている人】 (情報の)整理整頓が好きな人、数に敏感な人、語彙が豊富な人、発想が豊かな人、個性的な人、手を動かして考える人、「いつの間にか学んでいる」経験がある人 ※上記は担当教員の特徴(教員と共通点があることが学修の進展に有効であると見込まれるため)			
※この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			

教科書・参考書等

教科書・参考書：特になし。適宜授業内で指示。

オフィスアワー 授業終了後に対応する。

山崎研究室（南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・授業計画は進捗状況により、変更になる場合がある。変更については授業内で適宜連絡する。
- ・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示し、態度が改められない場合は単位の取得を認めない。

ナンバリングコード B4STT-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314110) 個別演習 (横山) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期金3	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学	
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習			
授業の概要 統計的な手法を用いて日本経済を分析することを目的とする。 受講者にもよるが、教科書の輪読やコンピュータの利用を通して経済の分析や解釈について学習していく。			
授業の目的 4月の段階で演習履修時の全般的な知識から、個別の興味あるテーマについて分析を行うことを目的とする。個別演習参加者各自が自分の興味あるテーマに関し関連図書を参照し発表を行っていく。これらの作業を複数回繰り返すことで、最終的に卒業論文の作成につなげる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
経済のしくみについて理解できるようになる。 プレゼンテーション能力を培う。 計算機リテラシーの能力を養成する。 個別演習へのテーマを設定ができる。 必要な議論を行うことができる。			
成績評価の方法と基準 ・個別演習 出席および普段の学習態度による。無断欠席に関しては単位を認定しない可能性があるので注意すること。 ・卒業論文 卒業論文等の作成時に別途に指示を与える予定ではあるが、個別演習において行ったことをA4サイズで20枚以上にまとめることを基本とする。最終的に他の受講生を含めた中で発表を行い、その優劣を含め評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ・選考基準 演習で行った程度の基礎知識を有し、個別演習においても真剣に取り組むと確約できる学生であれば受け入れる。 ・授業計画並びに授業および学習方法 4月の段階で演習履修時の全般的な知識から、個別の興味あるテーマについて分析を行うことを目的とする。個別演習参加者各自が自分の興味あるテーマに関し関連図書を参照し発表を行っていく。これらの作業を複数回繰り返すことで、最終的に卒業論文の作成につなげる。			
教科書・参考書等 『経済財政白書』などの政府刊行書			
オフィスアワー 授業の時間以外にも必要に応じて質問相談等を受ける用意がある。具体的時間に関しては第1回目の演習時において示すことにしたい。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席に関しては単位を認定しない可能性がある。 各学生には担当部分に関して課題を与えるので、それに関して誠実に取り組むことが要求される。			

ナンバリングコード B4BSN-cebE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 324165) 個別演習 (渡邊) Special Seminar 個別演習 (渡邊)	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 渡邊 孝一郎	関連授業科目	流通システム論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 ゼミ90分×30回+自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 卒業論文作成のための研究指導を行う。 履修者は毎回、研究の成果を発表し、さまざまな議論を通じて論文の質を高める。			
授業の目的 卒業論文作成に必要なとなる専門分野に関する応用的な知識や文章作成能力を身に着ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・流通論を通して、地域商業の事例を理解、分析、課題解決ができる。 ・地域商業によるまちづくり活動に関する卒業論文を作成できる。 ・ある課題に対して論理的思考のもと、研究できる。 			
成績評価の方法と基準 【個別演習】 研究の進捗状況、出席状況、討議への参加などにより総合的に判断する。 【卒業論文】 <ul style="list-style-type: none"> ・流通論に関連した研究テーマが選択されていること ・先行研究をふまえたうえで書かれていること ・所定の書式に従って作成されていること (書式については別途指示をおこなう) ・研究倫理に十分な配慮・対応をしていること ・分量は20,000字以上であること 			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【選考基準】 <ul style="list-style-type: none"> ・演習の取り組み状況、研究計画書により選考する。 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 第1回：イントロダクション 第2～29回：卒業論文の進捗状況報告と質疑 第30回：卒業論文報告会 この科目は基本的に対面授業を行う。なお状況によっては授業形態を一部遠隔へ変更する可能性がある。 演習生は、自身で研究の進捗状況を把握し、計画的に論文の執筆を行うことが求められる。 演習生は、2週に1回程度報告を行うことが求められる。 報告者は、研究の進捗状況などを示すレジюмеを作成した上で、人数分コピー・配布し、プレゼンテーションを行うことが求められる。 報告を行わない者は、報告者に対し建設的な批判や助言をおこなうことが求められる。 【自学自習のためのアドバイス】 各回ごとに出される課題に対して適宜、各自事前学習、事後学習として卒論執筆に一週間に少なくとも8時間を使用すること。			
教科書・参考書等 必要に応じて、資料を配布する。			
オフィスアワー 月曜日12:10-13:00 南キャンパス3号館3階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席厳禁 報告・連絡・相談を行うこと。			

